

学生の確保の見通し等を記載した書類

目次

1 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況	1
(1) 学生の確保の見通し	1
ア 入学定員設定の考え方	1
イ 過去5年間の入学者数の実績状況（平成26～30年度）	2
ウ 定員充足の見通し	3
エ 過去5年間の入学者数の学内進学・学外進学の内訳	4
オ 入学対象者へのアンケート調査による定員充足の見込み	5
カ 附属病院看護部の方針による定員充足の見込み	9
キ 共学講座参加企業による定員充足の見込み	10
(2) 学生確保に向けた具体的な取組状況	11
2 人材需要の動向等社会の要請	12
(1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）	12
(2) 医科学専攻に関する社会的ニーズ	13
ア 今回の大学院教育の機能強化構想、カリキュラム設計の妥当性	13
イ 医科学専攻設置ならびに養成する人材像に対する地域からの要請	13
(3) 人材需要の動向	14
ア 過去5年間の修了後の進路及び就職先	14
イ 本学医学部における年度別定年予定教員数	19
ウ 医科学専攻修了生に対する人材需要に関する企業アンケート結果	20
3 資料	22

1 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

(1) 学生の確保の見通し

ア 入学定員設定の考え方

急速な進歩を受けて高度に専門化した、生命科学、再生医科学、保健学の理解には、土台となる基礎医学（詳細な人体構造・生理・薬物の作用）の習得が重要である。医科学専攻博士前期課程では、土台となる基礎医学知識、生命・医療倫理および研究倫理の知識、医療安全、知財に関する知識を修得させるとともに、心と科学の両面を理解させる。

医科学専攻博士後期課程では、自立した研究活動を行うための高度な教育・研究を行い、イノベーション創出、バイオサイエンス事業化等の実践的プログラム教育を通じて、医学知識を持ち健康と福祉のためという確固たる目的を持った創薬・医療機器・診断技術関連企業での研究・開発者ならびにバイオサイエンスの事業化（起業）ができる人材、基礎医学および保健学の教育研究者などの人材を育成する。したがって、入学定員の設定には、主専攻分野の母体である現在の生命科学専攻、機能再生医科学専攻及び保健学専攻における過去5年間の入学者実績及び入学対象者へのアンケートの結果、さらに、修了後の鳥取大学教員や企業への採用見込みを勘案して決定している。

本学の学士教育課程から大学院への進学経路図について、現組織と改組後を示したものが図1である。

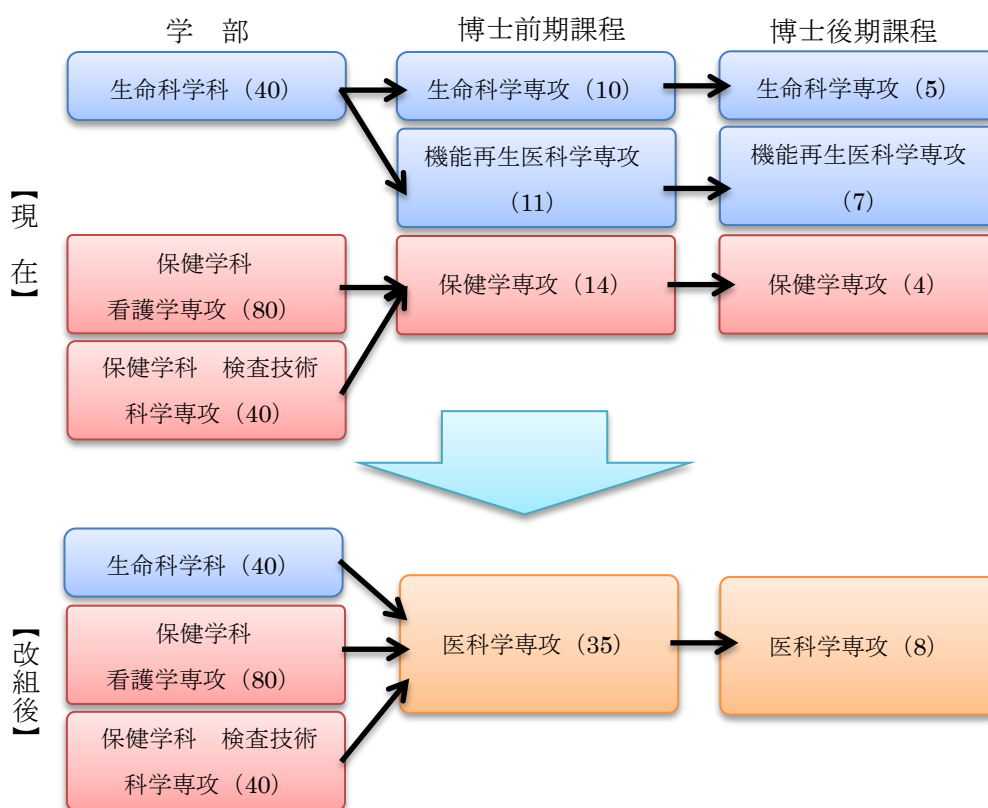


図1 現在と改組後の学士教育課程と大学院との関係 ()内は定員

本改組は、「設置の趣旨等を記載した書類」において述べたように、現在の主専攻の専門性を活かしつつ、土台となる基礎医学知識の修得や、生命・医療倫理，研究倫理の習得，医療安全，知財に関する知識を教授し，急速な進歩を受けて高度に専門化した生命科学，機能再生医科学，保健学分野の高度専門職業人および教育研究者等の養成を行うことである。したがって，入学定員の設定には，主専攻分野の母体である現在の生命科学専攻，機能再生医科学専攻及び保健学専攻における過去5年間の入学志願状況（入学者実績）を勘案して決定している。

博士前期課程では，母体となる現在の生命科学専攻，機能再生医科学専攻及び保健学専攻の平均入学者実績が定員に対して1.2倍程度であることから，現状の3専攻の入学定員をあわせた35名に維持する。

博士後期課程では，母体となる現在の生命科学専攻，機能再生医科学専攻及び保健学専攻の過去5年間の入学者実績は，3専攻合計の定員16名に対し平均11.4名（表3参照）である。さらに，ここ2年間は減少し，9～10名の入学者数となっている。これまでの入学実績を踏まえ，現状の3専攻の入学定員を見直し，8名とする。

研究科組織と入学定員について，現組織と改組後を示したものを表1に示す。

表1 現組織と改組後の組織及び入学定員

現組織			改組後の組織		
専攻	入学定員		専攻	入学定員	
	前期課程	後期課程		前期課程	後期課程
生命科学専攻	10	5	医科学専攻	35	8
機能再生医科学専攻	11	7	合計	35	8
保健学専攻	14	4			
合計	35	16			

イ 過去5年間の入学者数の実績状況（平成26～30年度）

生命科学専攻，機能再生医科学専攻及び保健学専攻の過去5年間の入学者実績状況（受験者倍率，定員充足率の詳細については，別添の参考資料1を参照）は，博士前期課程を表2に，博士後期課程を表3に示す。

博士前期課程では，3専攻全体において定員35名に対して過去5年間の平均入学者実績40.8名と十分に定員を確保してきている。専攻別でも，生命科学専攻，機能再生医科学専攻及び保健学専攻の平均入学者数は，それぞれ入学定員の1.1倍，1.33倍及び1.09倍程度となっている。

博士後期課程では，3専攻全体において定員16名に対して過去5年間の平均入学者実績11.4名と定員の確保は十分とは言えない状況が続いている。専攻別にみると，生命科学専攻及び機能再生医科学専攻の平均入学者数は，それぞれ入学定員の0.52倍及び0.51倍程度となっており，保健学専攻においては，5年平均では1.3倍となっている。

表2 現3専攻の過去5年間の入学者実績（博士前期課程）

専攻・部門	項目	H26	H27	H28	H29	H30	5年間の平均	
生命科学専攻	入学定員	10	10	10	10	10	10	
	入学者数	14	10	15	5	11	11	
機能再生医科学専攻	入学定員	11	11	11	11	11	11	
	入学者数	12	10	20	19	12	14.6	
保健学専攻	入学定員	14	14	14	14	14	14	
	入学者数	18	17	10	18	13	15.2	
	看護学分野	入学者数	6	9	6	13	5	7.8
	医用検査学分野	入学者数	12	8	4	5	8	7.4
合計	入学定員	35	35	35	35	35	35	
	入学者数	44	37	45	42	36	40.8	

表3 現3専攻の過去5年間の入学者実績（博士後期課程）

専攻・部門	項目	H26	H27	H28	H29	H30	5年間の平均	
生命科学専攻	入学定員	5	5	5	5	5	5	
	入学者数	3	1	2	2	5	2.6	
機能再生医科学専攻	入学定員	7	7	7	7	7	7	
	入学者数	8	3	3	3	1	3.6	
保健学専攻	入学定員	4	4	4	4	4	4	
	入学者数	3	5	10	4	4	5.2	
	看護学分野	入学者数	3	4	8	4	4	4.6
	医用検査学分野	入学者数	0	1	2	0	0	0.6
合計	入学定員	16	16	16	16	16	16	
	入学者数	14	9	15	9	10	11.4	

博士前期課程では、入学定員として設定した35名に対し、過去5年間の入学者実績の平均（40.8名）及び最少人数（36名）のいずれも定員を超えている。また、博士後期課程では、入学定員として設定した8名に対し、過去5年間の入学者実績の平均（11.4名）及び最少人数（9名）のいずれも定員を超えている。

ウ 定員充足の見通し

新しく設定した入学定員について、過去の5年間の入試実績から見込み入学者数を算定した結果を表4に示す。表4より、新専攻における見込み入学者数は、定員を超えている。

表4 過去の実績から見た新専攻の志願者倍率・定員充足率

専攻	入学定員		過去5年間の実績に基づく見込み入学者数	
	前期課程	後期課程	前期課程	後期課程
医科学専攻	35	8	40	11

エ 過去5年間の入学者数の学内進学・学外進学の内訳

医科学専攻の母体となる生命科学専攻，機能再生医科学専攻，保健学専攻のこれまでの入学実績の中で，学内進学者，学外進学者の内訳を，博士前期課程については表5に，博士後期課程については表6に示す。

表5 現3専攻の過去5年間の学内外別入学者実績（博士前期課程）

専攻	項目	H26	H27	H28	H29	H30	5年平均
生命科学専攻	入学者数	14	10	15	5	11	11
	学内進学者	14	9	15	5	11	10.8
	学外進学者等	0	1	0	0	0	0.2
機能再生医科学専攻	入学者数	12	10	20	19	12	14.6
	学内進学者	12(0)	10(2)	19(4)	17(1)	12(1)	14(1.6)
	学外進学者等	0	0	1	2	0	0.6
保健学専攻 医用検査学分野	入学者数	12	8	4	5	8	7.4
	学内進学者	9	8	2	5	6	6
	学外進学者等	3	0	2	0	2	1.4
保健学専攻 看護学分野	入学者数	6	9	6	13	5	7.8
	学内進学者	0	0	0	1	0	0.2
	学外進学者等	6〈0〉	9〈2〉	6〈3〉	12〈5〉	5〈3〉	7.6〈2.6〉
合計	学内進学者率	79.5%	73.0%	80.0%	66.7%	80.6%	76.0%

※学内進学者：本学4年次からの進学者（（ ）の数は鳥取大学工学部からの進学者(内数)）

※学外進学者等：他大学学生（米子工業高等専門学校（生命科学専攻），他大学等），社会人（附属病院，他大学教員，専門学校教員等）（〈 〉の数は附属病院看護部から）

表6 現3専攻の過去5年間の学内外別入学者実績（博士後期課程）

専攻	項目	H26	H27	H28	H29	H30	5年平均
生命科学専攻	入学者数	3	1	2	2	5	2.6
	学内進学者	3	1	2	2	3	2.2
	学外進学者等	0	0	0	0	2	0.4
機能再生医科学専攻	入学者数	8	3	3	3	1	3.6
	学内進学者	6	2	1	2	1	2.4
	学外進学者等	2	1	2	1	0	1.2
保健学専攻 医用検査学分野	入学者数	0	1	2	0	0	0.6
	学内進学者	0	0	1	0	0	0.2
	学外進学者等	0	1	1	0	0	0.4
保健学専攻 看護学分野	入学者数	3	4	8	4	4	4.6
	学内進学者	1	3	1	4	0	1.8
	学外進学者等	2	1	7	0	4	2.8
合計	学内進学者率	71.4%	66.7%	33.3%	88.9%	40.0%	57.9%

※学内進学者：前期課程修了者が翌年度進学した者

※学外進学者：社会人（企業、医療機関、本学医学部教員、他大学・専門学校教員 等）、留学生 等

表5に示すとおり、博士前期課程では、約76.0%が学内からの進学者で、約24.0%が学外からの進学者となっている。保健学専攻看護学分野の入学者は学外進学者が多いが、そのうち医学部附属病院の看護部から入学する者が5年平均で2.6名おり、年々増加している。

また、表6に示すとおり、博士後期課程では、約57.9%が学内からの進学者となっている。保健学専攻看護学分野の入学者は学外進学者が多いが、それらは、本学医学部、他大学および専門学校の教員となっている。

オ 入学対象者へのアンケート調査による定員充足の見込み

医科学専攻設置構想に関する入学者ニーズを調査するため、過去5年間の入学者の状況から、博士前期課程、博士後期課程それぞれにおいて、アンケートを実施した。

（博士前期課程）

過去5年間の入学者の約24.0%は学外からの進学者となっている（表5）。そのため、医科学専攻設置構想に関する学生ニーズを調査するアンケートは学内外の入学対象者に行った。

母体となる専攻の進学対象者である医学部生命科学科の3年生全員を対象に平成31年1月に、保健学科検査技術科学専攻の3年生全員を対象に平成30年9月～10月にアンケート

を行った。保健学科看護学専攻の3年生については、平成30年12月にアンケートを行った。また、基礎医学知識を持った工学系人材の養成も視野に入れているため、工学系学生として米子工業高等専門学校の専攻科1年生を対象としたアンケートを平成30年9月～10月に、本学工学部3年生を対象としたアンケートを平成30年12月に行った。保健学専攻（看護学分野）では、過去5年間の入学者は、学外からが97.4%となっており、学外進学者として多数を占める附属病院看護部の看護師（卒後4年目以上）を対象に平成30年10月にアンケートを行った。アンケートでは、医科学専攻のカリキュラム概要の説明文を記載した上で、実現した場合の進学希望を調査した。アンケート回収状況は、生命科学科（回答総数37名、回収率：82.2%）、保健学科検査技術科学専攻（回答総数42名、回収率：97.7%）、保健学科看護学専攻（回答総数75名、回収率：89.3%）米子工業高等専門学校（回答総数25名、回収率：75.8%）、工学部（化学バイオ系学科 回答総数90名、回収率：92.8%、電気情報系学科 回答総数108名、回収率：84.4%、機械物理系学科 回答総数5名、回収率：4.3%）、附属病院看護部（回答総数148名、回収率：28.8%）であった。

学生アンケートより、大学院医学系研究科医科学専攻博士前期課程への進学について明らかな希望を示している「進学したい」と回答した学生数と、医科学専攻の入学定員数の関係は表7のように集計された。

表7 医科学専攻の定員数と入学を希望する回答数の関係

専攻	前期課程 入学定員	回答学生所属	医科学専攻 希望学生数
医科学専攻	35	生命科学科	10
		保健学科・検査技術科学専攻	4
		保健学科・看護学専攻	0
		米子工業高等専門学校 専攻科	3
		工学部	25
		附属病院看護部	5
		合計	47

「進学したい」と回答し、入学先として医科学専攻を希望する者は入学定員を超えている。

アンケート結果からは、医学部生命科学科及び保健学科検査技術科学専攻からの希望者が14名であり、工学部からの希望者が25名となっている。実際には、表5より、過去5年間に医科学専攻の母体となる生命科学専攻及び機能再生医科学専攻に実際に入学した人数の平均は、生命科学科から23.2(10.8+12.4)名、工学部から1.6名となっている。また、保健学専攻医用検査学分野に入学した人数の平均は、保健学科検査技術科学専攻から6人となっている。生命科学科及び保健学科検査技術科学専攻の進学希望者が実際の入学者数（生命科学専攻、機能再生医科学専攻および保健学専攻医用検査学分野）に比べ少ない理

由として考えられるのは、生命科学科及び保健学科検査技術科学専攻においては、進学の意味決定の時期（図2参照）がアンケート実施時（3年次1月，3年次9月～10月）より遅いためである。4年次に進学し、それぞれの卒業研究に触れることで、医科学専攻博士前期課程への進学を希望する学生がさらに増えるものと考えられる。

従来の入学者に比較して工学部の進学希望者が多かったのは、医科学専攻における社会的ニーズに対応した医療機器開発者等の人材育成に魅力を感じたためと考えられる。今後、4年次に進学し、工学部の研究に触れることで、工学専攻博士前期課程への進学を希望する学生の割合が増えるものと思われるが、医科学専攻への進学を希望する学生も従来より増加するものと思われる。

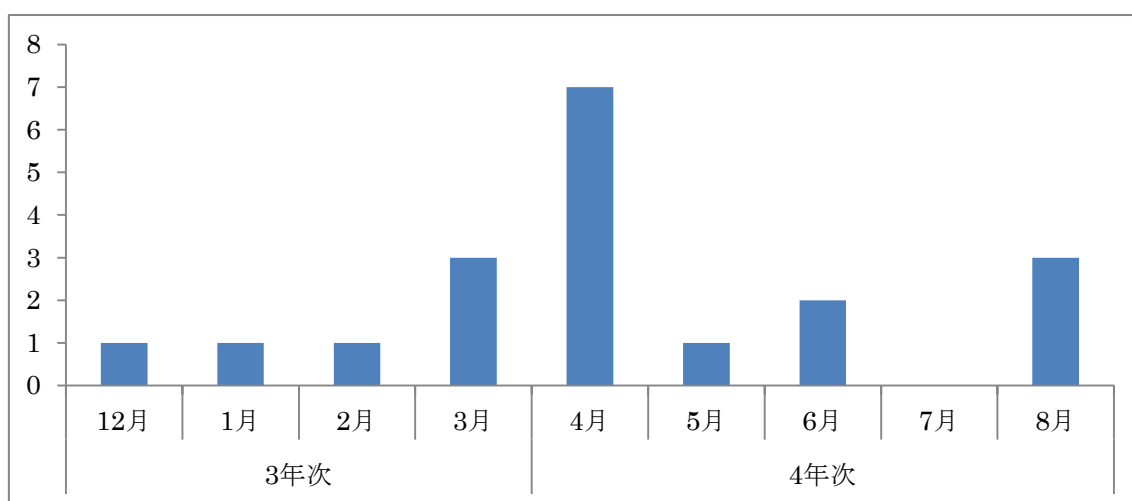


図2 大学院の受験を決めた時期

平成30年9月～10月に実施した生命科学専攻、機能再生医科学専攻及び保健学専攻博士前期課程1年次に対するアンケートにおいて、大学院の受験を決めた時期は、図2のとおりである。図2から、学部3年次の3月及び4年次の4月が最も多く、4年次進学時の前後で大学院進学を決めていることがわかる。

上記のアンケートに加え、同内容のアンケートを、令和3年4月入学対象者となる生命科学科、保健学科検査技術科学専攻及び保健学科看護学専攻の2年生全員、米子工業高等専門学校5年生全員、工学部2年生（機械物理系学科、化学バイオ系学科、電気情報系学科）に対しても行った。医科学専攻博士前期課程への進学について希望を示している「進学したい」と回答した学生数は表8のとおり集計された。

「進学したい」と回答した学生は56名おり、継続した学生確保ができるものと考えられる。

表8 令和3年4月入学対象者のうち進学したいと回答した数

回答学生所属	医科学専攻 希望学生数
生命科学科	12
保健学科・検査技術科学専攻	0
保健学科・看護学専攻	0
米子工業高等専門学校	7
工学部	37

(博士後期課程)

過去5年間の入学者の約57.9%が学内からの進学者となっている。そのため、学内進学者および、学外進学者の対象者に対しアンケート調査を行った。

学内対象者に対する医科学専攻設置構想に関する入学者ニーズを調査するため、平成30年9月～10月に生命科学専攻、機能再生医科学専攻、保健学専攻の1年生全員を対象にアンケートを行った。また、生命科学専攻および機能再生医科学専攻については、進学の意味決定時期を考慮し、平成31年2月に再度アンケート調査を行った。基礎医学知識を持った工学系人材の養成も視野に入れているため、持続性社会創生科学研究科工学専攻1年生を対象としたアンケートを平成30年12月に行った。アンケート回収状況は、生命科学専攻(平成30年9月～10月実施:回答総数7名,回収率:63.6%,平成31年2月実施:回答総数8名,回収率72.7%),機能再生医科学専攻(平成30年9月～10月実施:回答総数8名,回収率:66.7%,平成31年2月実施:回答総数12名,回収率100%),保健学専攻(回答総数9名,回収率:56.3%),工学専攻(情報エレクトロニクスコースおよび化学バイオコース 回答総数50名,回収率:46.7%)であった。

その結果、医科学専攻への進学について明らかな希望を示している「進学したい」と回答した学生数と、医科学専攻の入学定員数の関係は表9のように集計され、機能再生医科学専攻5名、保健学専攻2名、工学専攻2名の計9名であった。

学外対象者に対する医科学専攻設置構想に関する入学者ニーズを調査するため、平成30年10月に附属病院看護部の看護師(卒後4年目以上)を対象としたアンケート、さらに近隣の看護大学の教員および本学の保健学教員に対するアンケートを行った。アンケートでは、医科学専攻のカリキュラム概要の説明文を記載した上で、実現した場合の進学希望を調査した。附属病院看護部(回答総数148名,回収率:28.8%),本学の保健学教員(回答総数2名,回収率100%),近隣の看護大学教員(回答総数8名,回収率100%)であった。

その結果、医科学専攻への進学について明らかな希望を示している「進学したい」と回答した数と、医科学専攻の入学定員数の関係は表9のように集計され、附属病院看護部3名、本学保健学教員1名の計4名であった。

以上のアンケート結果より、医科学専攻への入学について明らかな希望を示している「進学したい」と回答した数は13名であり入学定員を上回っている。

さらに、入学対象者へのアンケートにおいて表 10 に示すとおり、「どちらかといえば、進学したい」、「就職後、必要を感じたら進学したい」という回答が 54 人から得られていることから、今後の潜在的な需要を広報活動等により入学に結びつけることによって、学生定員の確保につなげていくことで、入学者数を確保していく。なお、平成 30 年 9 月～10 月のアンケートでは生命科学専攻および機能再生医科学専攻の進学希望学生数が 0 人となっていたが、アンケートが入学後半年の時期であり、将来の進路についてまだ検討していないことが考えられたため、入学後約 1 年経過した時点（平成 31 年 2 月）で再度のアンケートを実施した結果、進学希望者が 5 名に増えた。

表 9 医科学専攻の定員数と医科学専攻への「進学したい」と回答した数の関係

専攻	入学定員	回答学生所属	医科学専攻希望学生数
医科学専攻	8	生命科学専攻	0
		機能再生医科学専攻	5
		保健学専攻	2
		工学専攻	2
		附属病院看護部	3
		鳥取看護大学	0
		本学保健学教員	1
		合計	13

表 10 医科学専攻へ「どちらかといえば、進学したい」、「就職後、必要を感じたら進学したい」と回答した数の関係

回答者所属	どちらかといえば、進学したい	就職後、必要を感じたら進学したい
生命科学専攻	0	3
機能再生医科学専攻	0	2
保健学専攻	3	1
工学専攻	4	14
附属病院看護部	15	9
鳥取看護大学	2	0
本学保健学教員	1	0
合計	25	29

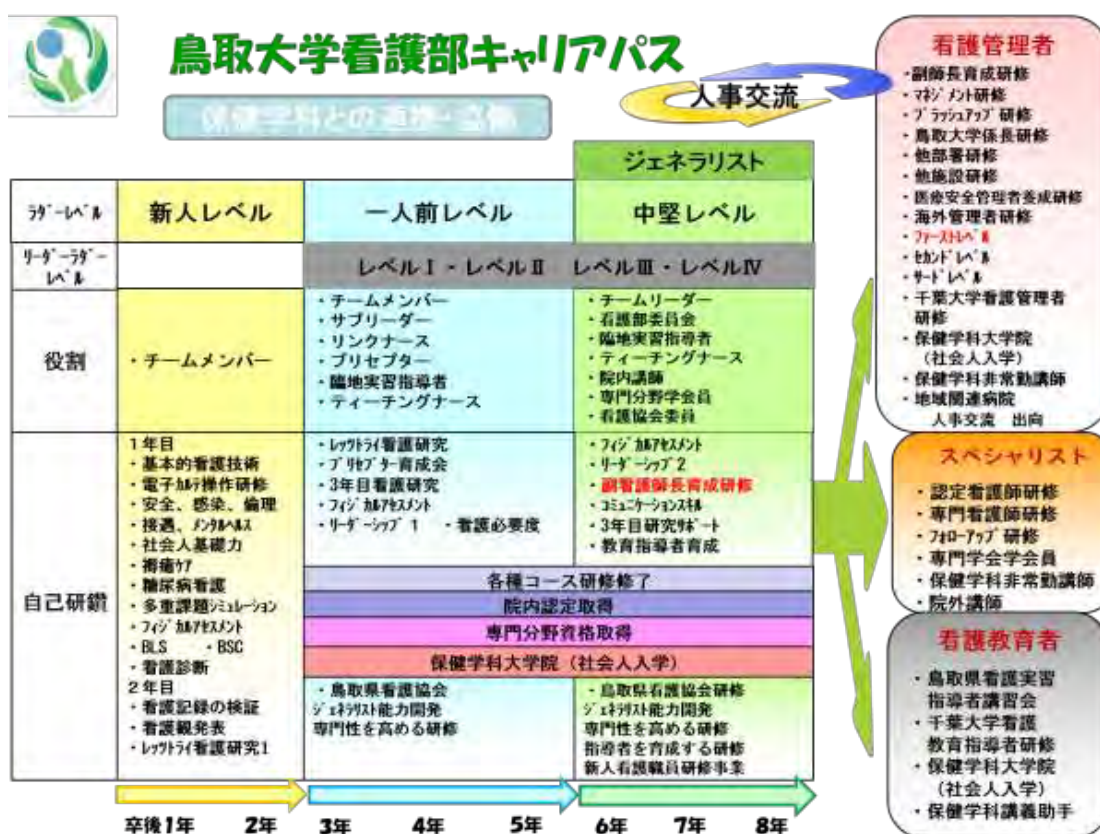
カ 附属病院看護部の方針による定員充足の見込み

医学部附属病院看護部は、「共に歩む看護」を理念として、専門性の高い看護の提供、看護の教育・研究を推進し、地域の人々と「共に歩む看護」を実践することを目的としている。そのためには、特定機能病院である本院の使命を踏まえ、病院と地域における看護・保健

のリーダーとしての役割を果たすことのできる看護師を養成することが必要である。医学部附属病院看護部のキャリアパス支援計画（図3）では保健学科看護学専攻との連携・協働をテーマとしていて、各種コース研修、院内認定、専門分野の資格取得を支援するとともに、スキルアップ及びキャリアアップを目的に大学院保健学専攻への進学を大きな柱として設定している。新人研修を終えた若手から管理的立場の師長まで、附属病院の看護を担う幅広い人材に対して、3つの専攻を統合させた大学院医科学専攻への進学を奨励することにより、より広い視野で病院と地域の看護・保健の分野をリードすることができる人材の養成が期待できる。附属病院看護部では、毎年、医科学専攻博士前期課程に5名、博士後期課程に2名の進学を計画している。同時に、幅広い視野を持った看護教員の養成は喫緊の課題であるので、医科学専攻博士後期課程を前期課程と同時に設置することの重要性も共有している。

図3：附属病院看護部キャリアパス

<http://www2.hosp.med.tottori-u.ac.jp/departments/establishment/nursing/1497/22046.html>



キ 共学講座参加企業による定員充足の見込み

医学部附属病院新規医療研究推進センターにおいて医療機器開発のための共学講座に参加している鳥取県内外の医療機器開発関連企業に対してアンケートを実施し、表11のとおり集計された。6社中4社から令和2年（2020年）4月に医科学専攻博士前期課程に、ま

た、6社中4社から令和2年（2020年）4月に医科学専攻博士後期課程に社会人大学院生として是非入学させたいと回答が得られている。

表 11 医療機器開発のための共学講座参加企業のアンケートについて

設問	回答	
令和2年4月開設予定の医科学専攻博士前期課程に社員を入学させることについて	是非入学させたい 4	入学させることは考えていない 2
令和2年4月開設予定の医科学専攻博士後期課程に社員を入学させることについて	是非入学させたい 4	入学させることは考えていない 2

（2） 学生確保に向けた具体的な取組状況

医科学専攻の広報活動

進学及び入学ニーズに関するアンケート調査結果は、表7および表9に示したように、医科学専攻への進学に対して明確な希望を示した人数から必要数を確保できる見込みがあるが、今後はさらに医科学専攻の魅力や進学することのメリットを全学あげて積極的に学生や社会人へ広報していく計画である。

具体的には、次のような取り組みを実施していく。

保健学科、米子工業高等専門学校、本学工学部及び附属病院看護部に対して博士前期課程への進学について聞いたアンケートでは、「どちらかといえば、進学したい」、「就職後、必要を感じたら進学したい」という選択肢も設けている。また、生命科学科のアンケートでは、「本学他専攻もしくは国内外の他大学の大学院への進学を希望する」という選択肢を設けており、令和2年4月入学対象者は表12、表13のとおり回答している。

表 12 アンケートで「どちらかといえば、進学したい」、「就職後、必要を感じたら進学したい」と回答した数

所属	どちらかといえば、進学したい	就職後、必要を感じたら進学したい
生命科学科	5	1
保健学科・検査技術科学専攻	4	1
保健学科・看護学専攻	1	5
米子工業高等専門学校 専攻科	5	7
工学部	39	20
附属病院看護部	16	13

表 13 アンケートで「本学他専攻もしくは国内外の他大学の大学院への進学を希望する」と回答した数

所属	回答数
生命科学科	17

本医科学専攻へ進学したいと明確な意思表示をした入学対象者以外にも潜在的な進学希望者がいると思われることから、前述の進学決定時期を見越して、今後もオリエンテーションなどの学部学生が集まる機会に医科学専攻の魅力や進学することのメリットについて全学あげて情報提供を積極的に進め、入学志願者数の増加を図っていく。また、附属病院看護部にも保健学教員から医科学専攻への入学を働き掛ける機会を設け、入学志願者の増加を図っていき、継続した学生確保につなげていく。あわせて、博士後期課程の入学対象者となる博士前期課程の学生に対しては、オリエンテーションや研究指導などにおいて、医科学専攻博士後期課程の魅力について説明し、入学志願者数の増加を図る。

さらに、ホームページやパンフレット、各地で開催される大学案内に参加すること等により、積極的に情報提供に努め、他大学出身者や社会人学生の入学志願者数の増加も図っていく計画である。また、医療機器開発の共学講座に参加している企業へも積極的な広報活動をしていく計画である。

とくに、「修士（保健学）」、「博士（保健学）」の取得を目指す者にとっては、医科学専攻という名称だけでは、心と科学の統合の理念と、心を学問することが多い看護学がそれに含まれることが十分に把握できない可能性があるため、看護関連の授業科目について、博士前期課程では専門家養成科目（保健学）、博士後期課程ではスペシャリスト教育科目（保健学）、アドバンス教育科目（保健学）のように、科目区分と取得を目指す学位の関係を明示するとともに、履修指導として、がん看護専門看護師養成、保健学教員・研究者養成等の、養成する人材像ごとに在学中の履修モデルを作成して、募集要項、ホームページ、パンフレット等に掲載して周知に務める。

2 人材需要の動向等社会の要請

(1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

医科学専攻博士前期課程では、医科学専攻の教育研究理念のもとに、修得させた基礎医学知識を土台に、生命科学、機能再生医科学、保健学の統合による基盤医学の深い学識を涵養し、心と科学の両面を理解させるとともに先端研究を行うことで、医学的知識を持ち、生命科学、再生医学、保健学分野における高い専門性と倫理観を備えた専門職業人や研究能力を有する人材を育成する。そのため、基盤的教育科目、分野横断的科目、ならびに専門家養成科目を設定し、製薬・医療機器関連企業での従事・開発者や医療現場で活躍できる高度臨床実践者として必要な能力を修得させる。

医科学専攻博士後期課程は、医科学専攻の教育研究理念のもとに、心と科学の両面を理解し、真理の探究などの基礎医学の研究、診断・治療・予防の原理に関する基盤研究、健康維持増進の研究、トランスレーショナル医学の推進やイノベーションの創出などを独立して行える能力を身につけさせ、基礎医学教員や保健学教員、企業等の研究者、さらには将来の医科学関連の起業家、等を育成する。そのため、先端的医学知識および高い倫理観を身につけるための基盤的教育科目の設定や、医科学領域の高度かつ専門的な知識・技術の習得のためのスペシャリスト教育科目の設定、独立して教育・研究ができる能力を涵養するためのアドバンス教育科目の設定、さらに、特別研究を行い必要な能力を修得させる。

(2) 医科学専攻に関する社会的ニーズ

ア 今回の大学院教育の機能強化構想，カリキュラム設計の妥当性

今回の大学院教育の機能強化構想，カリキュラム設計の妥当性について，企業（鳥取大学振興協力会会員企業および本学大学院医学系研究科生命科学専攻，機能再生医科学専攻，保健学専攻修了者の就職先企業）に対してアンケート調査（平成29年12月～平成30年1月実施，回答数：111社）を実施した。

医科学専攻の設置構想については，表14に示すように56.8%の企業から「必要である」と回答を受けており，今回の構想が社会的ニーズに対応していることが判断できる。

表14 医科学博士の大学院の必要性について

必要である	必要ではない	わからない	必要であると回答した企業の割合
63	2	46	56.8%

次に，社会人として入学させる場合に，企業が求める能力・知識について，医科学専攻修了者が就職する業種である医療・福祉及び製造業の回答を表15に示す。「グループで仕事をする力（リーダーシップ，チームワーク）」，「医学・医療分野の実践的活用力（最先端の検査・診断技術，製品開発等）」，「課題を発掘しプロジェクトを企画する力」，「分野にとらわれない研究力・技術開発力」，「医学・医療分野の高度な知識・技術（大学教員，研究者）」，「包括的地域支援実践力（病院看護師，特定行為のできる看護師等）」，「生命医療倫理の知識」の能力が求められていることがわかり，医科学専攻における土台となる基礎医学（解剖，生理，薬理等）教育や専門職業人養成教育および教育研究者養成教育の実施が社会的ニーズに対応していると判断できる。

表15 企業が求める能力・知識について（製造業，医療，福祉：57社）

選択肢	回答率
グループで仕事をする力（リーダーシップ，チームワーク）	52.6%
医学・医療分野の実践的活用力（最先端の検査・診断技術，製品開発等）	50.9%
課題を発掘しプロジェクトを企画する力	47.4%
分野にとらわれない研究力・技術開発力	42.1%
医学・医療分野の高度な知識・技術（大学教員，研究者）	35.1%
包括的地域支援実践力（病院看護師，特定行為のできる看護師等）	26.3%
生命医療倫理の知識	21.1%

イ 医科学専攻設置ならびに養成する人材像に対する地域からの要請

医科学専攻設置構想について、地域の関係機関に対し設置の趣旨（3専攻統合の意義や必要性）、養成する人材像、設置の時期、等の説明を行い、以下の機関から設置についての要望が提出された。

- (i) 鳥取県から、設置にかかる要望として、「鳥取大学大学院医学系研究科医科学専攻博士課程の設置に関する要望書」（平成31年3月14日付第201800334095号）が提出された。高度な医療機器開発等ができる専門職業人や高度臨床実践ができる人材を養成する本専攻の設置は、「人財とっとり」を掲げる本県はもとより地域に根差した人材の育成と地域産業・地域保健の発展・高度化に貢献できるとして、是非ともその早期実現を強く要望された。また、県内の看護師・保健師・助産師養成施設の教員不足のため、心と科学の両面を理解した保健学教育研究者（大学教員）の養成や、製薬・医療機器関連企業での研究開発者や事業化できるような能力を持った人材養成が地域地場産業創出には欠かせないことより、それらの人材を養成する博士後期課程の一刻も早い設置が強く要望された。
- (ii) 米子市から、設置にかかる要望として、「鳥取大学大学院医学系研究科医科学専攻博士課程の設置に関する要望書」（平成31年2月7日付都創起第629号-1）が提出された。より深く人間の心を理解したうえで、高度な医療機器開発等ができる専門職業人や包括的地域支援ができる人材の養成を強く要望された。また、新技術や高度な知識をもとに事業化できる能力を持った専門職業人や大学教員を養成する博士後期課程の早期設置が要望されている。
- (iii) 鳥取県看護協会から、設置にかかる要望として、「鳥取大学大学院医学系研究科医科学専攻博士課程の設置に関する要望書」（平成31年2月28日付鳥看協総発第233号）が提出された。本専攻の設置により養成された高度な知識と技術をもつ看護師・助産師・保健師が、保健・医療・福祉の諸課題を探究し、その対策を行うことで、鳥取県の看護や福祉の質が向上し、その成果は山陰地方の地域住民に還元されることが期待されるとされ、特に、県内の看護師等養成施設の教員不足解消につながる保健学教員については一刻も早い養成が要望されており、博士前期課程および後期課程の令和2年4月の同時設置が強く要望された。
- (iv) 鳥取県経済同友会（西部地区）から、設置にかかる要望として「鳥取大学大学院医学系研究科医科学専攻博士課程の設置に関する要望書」（平成31年3月7日付）が提出された。医療機器研究開発者や事業化できるような能力を持った人材等の養成は、地場産業創出には欠かせないことより、それらの人材を養成する博士前期課程および後期課程の令和2年4月の同時設置が強く要望された。

(3) 人材需要の動向

ア 過去5年間の修了後の進路及び就職先

医科学専攻の母体となる生命科学専攻、機能再生医科学専攻及び保健学専攻の過去5年間の修了生の進路は、博士前期課程を表16、博士後期課程を表17に、就職先は、博士前期課程を表18、博士後期課程を表19に示す。

表 16 過去5年間の現3専攻の修了後の進路（博士前期課程）

専攻	区分	H25	H26	H27	H28	H29	5年 平均
生命科学専攻	修了者数 a	14	6	12	9	15	11.2
	進学者数 b	5	2	2	3	4	3.2
	就職者数 c	9	4	10	6	11	8
	新規就職者数	9	4	10	6	11	8
	社会人院生	0	0	0	0	0	0
	就職率 $c/(a-b)$	100%	100%	100%	100%	100%	100%
機能再生医科学専攻	修了者数 a	13	14	11	10	20	13.6
	進学者数 b	6	4	1	2	1	2.8
	就職者数 c	6	9	10	8	19	10.4
	新規就職者数	6	9	10	8	19	10.4
	社会人院生	0	0	0	0	0	0
	就職率 $c/(a-b)$	85.7%	90.0%	100%	100%	100%	96.3%
保健学専攻 医用検査学分野	修了者数 a	10	4	12	8	4	7.6
	進学者数 b	1	0	1	0	0	0.4
	就職者数 c	9	4	11	8	4	7.2
	新規就職者数	9	3	10	8	3	6.6
	社会人院生	0	1	1	0	1	0.6
	就職率 $c/(a-b)$	100%	100%	100%	100%	100%	100%
保健学専攻 看護学分野	修了者数 a	7	9	6	8	8	7.6
	進学者数 b	1	0	2	4	0	1.4
	就職者数 c	6	9	4	4	7	6.0
	新規就職者数	0	0	1	0	0	0.2
	社会人院生	6	9	3	4	7	5.8
	就職率 $c/(a-b)$	100%	100%	100%	100%	87.5%	96.8%
合計	修了者数 a	44	33	41	35	47	40.0
	進学者数 b	13	6	6	9	5	7.8
	就職者数 c	30	26	35	26	41	31.6
	新規就職者数	24	16	31	22	33	25.2
	社会人院生	6	10	4	4	8	6.4
	就職率 $c/(a-b)$	96.8%	96.3%	100%	100%	97.6%	98.1%

各年度末時点で把握している進路であり、その時点で就職先・進学先が不明な学生は数値に入っていない。

表 17 過去 5 年間の現 3 専攻の修了後の進路（博士後期課程）

専攻	区分	H25	H26	H27	H28	H29	5 年 平均
生命科 学専攻	修了者数 a	1	0	0	1	1	0.6
	就職者数 b	1	0	0	1	1	0.6
	社会人院生	0	0	0	0	1	0.2
	就職率 b/a	100%	-	-	100%	100%	100%
機能再 生医科 学専攻	修了者数 a	3	5	4	4	3	3.8
	就職者数 b	3	5	4	4	3	3.8
	社会人院生	1	3	2	1	2	1.8
	就職率 b/a	100%	100%	100%	100%	100%	100%
保健学 専攻	修了者数 a	8	3	4	2	4	4.2
	就職者数 b	8	3	4	2	4	4.2
	社会人院生	8	3	4	2	4	4.2
	就職率 b/a	100%	100%	100%	100%	100%	100%
合計	修了者数 a	12	8	8	7	8	8.6
	就職者数 b	12	8	8	7	8	8.6
	社会人院生	9	6	6	3	7	6.2
	就職率 b/a	100%	100%	100%	100%	100%	100%

表 18 現 3 専攻の過去 5 年間の就職先人数 (博士前期課程)

生命科学専攻	H25	H26	H27	H28	H29	総計
製薬企業	1	0	0	2	3	6
医薬技術開発企業	2	1	5	2	3	13
医療機関	2	1	1	1	1	6
製造業	1	2	2	0	2	7
官公庁	1	0	0	0	0	1
その他	2	0	2	1	2	7
進学	5	2	2	3	4	16
総計	14	6	12	9	15	56
機能再生医科学専攻	H25	H26	H27	H28	H29	総計
製薬企業	1	2	4	3	3	13
医薬技術開発企業	1	3	1	2	7	14
製造業	1	1	4	3	5	14
官公庁	1	1	0	0	3	5
その他	3	4	1	0	1	9
進学	6	3	1	2	1	13
総計	13	14	11	10	20	68
保健学専攻 医用検査学分野	H25	H26	H27	H28	H29	総計
医療機関	9	4	11	8	4	36
進学	1	0	1	0	0	2
総計	10	4	12	8	4	38
保健学専攻 看護学分野	H25	H26	H27	H28	H29	総計
医療機関	6	6	2	2	6	22
官公庁	0	1	0	0	0	1
教員	0	2	0	2	1	5
その他	0	0	2	0	1	3
進学	1	0	2	4	0	7
総計	7	9	6	8	8	38

表 19 現 3 専攻の過去 5 年間の就職先人数（博士後期課程）

生命科学専攻	H25	H26	H27	H28	H29	総計
教員	1 (1)	0	0	1 (1)	1	3 (2)
総計	1	0	0	1	1	3
機能再生医科学専攻	H25	H26	H27	H28	H29	総計
製薬企業	0	2	1	0	0	3
医療技術開発企業	0	0	1	1	1	3
医療機関	0	2	0	0	1	3
教員	3 (3)	2 (1)	1	3	0	9 (4)
その他	0	0	0	1	0	1
総計	3	6	3	5	2	19
保健学専攻	H25	H26	H27	H28	H29	総計
医療機関	3	0	0	0	1	4
教員	5 (3)	3 (1)	4 (2)	1	3 (3)	16 (9)
その他	0	0	0	1	0	1
総計	8	3	4	2	4	21

※ () 内は、鳥取大学医学部の教育・研究者として採用された人数（内数）

博士前期課程については、表 16 より 5 年間の平均修了者数は 40 名で、そのうち進学者数が 7.8 名、社会人大学院生が 6.4 名であったことより、新規に就職先が必要な人数としては、40 名より進学者と社会人大学院生を引いた残りの 25.8 名分が想定される。それに対して、過去 5 年間の就職率は、98.1%と非常に良好であった。

さらに、医科学専攻では、これまでの母体となる各専攻の専門性を維持しつつ、解剖・生理・薬理等の基礎医学、医療安全、医療・研究倫理及び心と科学の両面を理解する医科学を学ぶことにより、医科学に関係した裾野の広い知識・技術を修得した新たな人材を養成できることとなる。そのため、これまでの実績以上に、修了後の人材需要の見通しは十分に確保されるものと考えられる。

博士後期課程については、表 17 より 5 年間の平均修了者数は 8.6 名で、社会人大学院生が 6.2 名であったことより、新規に就職先が必要な人数としては、8.6 名より社会人大学院生を引いた残りの 2.4 名分が想定される。それに対して、過去 5 年間の就職率は、表 17 より 100%と非常に良好であった。

また、就職先については、表 19 より既存の 3 専攻を合計すると教員 28 名、医療機関 7 名、製薬企業 3 名、医療技術開発企業 3 名等となっている。

以上の実績より、就職率は良好で、就職先としては教員、医療機関、製薬企業、医療技術開発企業が主体となっている。また、教員としての就職先は、28 名中 15 名が鳥取大学医学部の教員であった。特に従来の保健学専攻では、過去 5 年間の修了者 21 名のうち 16 名

(76.2%)が教員として就職しており、博士(保健学)取得後の進路として教員が多数となることを想定している。

今回の改組では、先端的医学知識や高い倫理観を身につけ、心と科学の両面を理解させ、特別研究等の実践的教育(教育体験やビジネス関連教育も含む)を通して、トランスレーショナルリサーチ(TR)を行える能力、イノベーション創出のできる能力、教員として独立できる能力、起業できる能力、等を育成する。それにより、科学的根拠に基づく生命科学の展開に人間の健康と福祉の向上という視点を持つことができる人材や、人々の生活を基盤とした健康と福祉に貢献する保健学において科学的根拠に立脚した展開を実践することができる人材の養成が可能となる。そのため、改組前に比べてより魅力のある人材を輩出することができることになり、これまでの実績以上に、修了後の人材需要は十分に確保されるものと考えられる。

イ 本学医学部における年度別定年予定教員数

令和3年(2020年)度以降の本学医学部において定年退職する医学科(基礎)、生命科学科及び保健学科の教員数は、表20のとおり今後10年間で毎年1~7名おり、計46名となっている。医学部における教育の質を維持するためには、退職した教員の補充が必要であり、今後10年間は毎年1~7名の基礎医学、生命科学及び保健学の教員を採用する予定である。過去5年間の既存専攻博士後期課程修了者が本学医学部の教員として15名(毎年1名以上)が就職している実績(表19参照)もあり、心と科学の両面を理解させることで、より魅力のある人材を養成する新しい課程修了者の教員採用がこれまで以上に見込まれる。

表20 年度別定年退職予定教員数

年度	医学科(基礎)	生命科学科	保健学科	合計
R3	5	0	2	7
R4	2	1	4	7
R5	0	1	4	5
R6	2	1	2	5
R7	1	1	0	2
R8	4	1	2	7
R9	1	1	0	2
R10	1	1	3	5
R11	0	0	1	1
R12	1	2	2	5
合計	17	9	20	46

ウ 医科学専攻修了生に対する人材需要に関する企業アンケート結果

上記（２）医科学専攻に関する社会的ニーズで述べた企業アンケート調査（平成 29 年 12 月～平成 30 年 1 月実施，回答数：111 社）より，企業が求める能力・知識が医科学専攻で養成する人材像と合致している内容について，そのような力を身につけた人材が自社で必要かを聞いた設問の回答結果を表 21 に示す。26 社が「強く思う」と，選択肢に記載された力を身につけた人材が必要としている。

表 21 企業が求める能力・知識について

選択肢	強く思う	思う	思わない	わからない
グループで仕事をする力（リーダーシップ，チームワーク）	19	27	6	5
医学・医療分野の実践的活用力（最先端の検査・診断技術，製品開発等）	9	24	11	3
課題を発掘しプロジェクトを企画する力	16	26	4	3
分野にとらわれない研究力・技術開発力	17	23	6	2
医学・医療分野の高度な知識・技術（大学教員，研究者）	9	24	11	3
包括的地域支援実践力（病院看護師，特定行為のできる看護師 等）	5	17	5	1
生命医療倫理の知識	6	11	7	1

※複数選択可の設問であり，「強く思う」と回答した 81 社のうち 55 社が重複して回答している。

さらに，附属病院新規医療研究推進センターで医療機器開発に関する共学講座に参加している県内外の医療機器開発関連企業 5 社（上記アンケート対象外の企業）に，医科学専攻の修了生を採用したいか聞いたところ，「是非採用したい」と回答した企業は，博士前期課程および博士後期課程とも 5 社であった（表 22）。

表 22 医療機器開発のための共学講座参加企業のアンケートについて

設問	回答	
	是非採用したい	採用しない
医科学専攻博士前期課程の修了生を採用することについて	5	1
医科学専攻博士後期課程の修了生を採用することについて	5	1

以上のことより、人材需要の動向（ア 過去5年間の修了後の進路及び就職先）において記述した新規に就職先が必要な人数（博士前期課程：26名，博士後期課程：2.4名）を上回っており、医科学専攻修了生の人材需要の見通しは十分に確保されるものと判断できる。

3 資料

進路アンケート(本学大学院医学系研究科医科学専攻に関するアンケートも含む)
【生命科学科3年生】

回答者属性

	3年生
生命科学科	37

1.現在、学部卒業後の進路についてどのように考えていますか？

就職したい	5
大学院博士前期課程に進学したい	28
その他	3
分からない	3

1.で「就職したい」を選択した者に対する質問

2-1.どのような職種に就職希望ですか？(複数回答可能、最も合致するものに◎)

	○	◎
公務員	0	0
研究職	3	0
営業職	3	1
総合職	3	1
その他	1	1
分からない	0	0

その他の回答:開発職

2-2.どのような分野に就職希望ですか？(複数回答可能、最も合致するものに◎)

	○	◎
公務員	0	0
製薬メーカー	4	0
医療機器メーカー	3	0
食品メーカー	1	0
その他のメーカー	1	1
MR	2	0
臨床開発モニター(CRA)	2	0
杯培養士	0	0
認定遺伝カウンセラー	0	0
出版業	2	0
その他	1	1
分からない	0	0

その他の回答:ゲーム開発

2-3. 1.で大学院に進学しない理由は何ですか？

	○	◎
早く働きたい	4	2
就学時の経済的な問題	4	2
向いているかどうか、修了できるかどうか不安	2	0
将来の進路が不安	4	1
生活の問題(結婚や出産など)	0	0
家族や知人の意見	0	0
研究に興味がない	1	0
その他	0	0

2-4.就職後、必要を感じたら大学院に進学したい場合にのみお答えください。

本学大学院医科学専攻(博士前期課程もしくは後期)の入学を希望する	1
本学他専攻もしくは国内外の他大学の大学院(博士前期課程もしくは後期)の入学を希望する。	4

1.で「大学院博士前期課程に進学したい」を選択した者に対する質問

3-1.現在、博士前期課程の進路についてどのように考えていますか？

本学大学院医科学専攻の入学を希望する	17
本学他専攻もしくは国内外の他大学の大学院を希望する	17

※10名は両方を選択しているが、内3名が医科学専攻に◎を記載

3-2.本学大学院医科学専攻以外の大学院の入学を希望する理由は何ですか？(複数解答可能、最も合致するものに◎)

	○	◎
研究内容	12	9
経済的な理由等で地元から通学したい	2	0
就職が有利	4	2
就活が楽、経済的	4	0
学歴	3	1
家族、知人の意見	3	1
その他	2	1

研究内容の記載:より自分の行いたい研究に近い内容であれば、ウイルス

その他の記載:視野を広げたい

3-3.現在、博士前期課程修了後の進路についてどのように考えていますか？

就職したい	19
大学院博士後期課程に進学したい	3
その他	1
分からない	0

3-3.で「就職したい」を選択した者に対する質問

4-1.どのような職種に就職希望ですか？(複数解答可能、最も合致するもの一つに◎)

	○	◎
公務員	6	1
研究職	17	13
営業職	1	0
総合職	4	2
その他	1	0
分からない	3	3

その他の記載: 開発職

4-2.どのような分野に就職希望ですか？(複数解答可能、最も合致するもの一つに◎)

	○	◎
公務員	6	0
製薬メーカー	14	9
医療機器メーカー	5	0
食品メーカー	5	2
その他のメーカー	1	0
MR	2	0
臨床開発モニター(CRA)	3	0
杯培養士	2	0
認定遺伝カウンセラー	0	0
出版業	2	0
その他	0	0
分からない	6	3

公務員の具体的な記載: 農業関係、科捜研

その他のメーカーの記載: 化粧品メーカー

4-3. 3-3 で大学院博士後期課程に進学しない理由は何ですか？(複数解答可能、最も合致するもの一つに◎)

	○	◎
早く働きたい	8	1
就学時の経済的な問題	6	3
向いているかどうか、修了できるかどうか不安	12	3
将来の進路が不安	10	4
生活の問題(結婚や出産など)	4	0
家族や知人の意見	0	0
研究に興味がない	1	0
その他	1	0

その他の記載: とりあえず、前期をやってみないと分からない

4-4. 就職後、必要を感じたら大学院博士後期課程に進学したい場合にのみお答えください。

本学大学院医科学専攻の入学を希望する	4
本学他専攻もしくは国内外の他大学の大学院(博士後期課程)の入学を希望する	11

3-3.で「大学院博士後期課程に進学したい」を選択した者に対する質問

5-1.現在、博士後期課程の進路についてどのように考えていますか？

本学大学院医科学専攻の入学を希望する	2
本学他専攻もしくは国内外の他大学の大学院を希望する	4

5-2.本学大学院医科学専攻以外の大学院の入学を希望する理由は何ですか？（複数解答可能、最も合致するものに◎）

	○	◎
研究内容	3	2
経済的な理由等で地元から通学したい	0	0
就職が有利	2	0
就活が楽、経済的	1	0
学歴	2	0
家族、知人の意見	1	0
その他	0	0

5-3.現在、博士後期課程修了後、どのような職種に就職希望ですか？（複数解答可能、最も合致するものに◎）

	○	◎
大学教員	2	2
その他公的研究機関の研究職	2	0
企業の研究職	2	0
バイオサイエンスの事業化(起業)	3	0
その他	0	0
分からない	0	0

6.7.については、プライバシーに関する設問のため、回答内容は記載しない。

2-4 就職後、必要を感じたら大学院に進学したい場合にのみお答えください。

- 1) 本学大学院医科学専攻（博士課程前期もしくは後期）の入学を希望する。
- 2) 本学他専攻もしくは国内外の他大学の大学院（博士課程前期もしくは後期）の入学を希望する。

6へお進みください。

3 以下にお答えください。

3-1 現在、博士前期課程の進路についてどのように考えていますか？

- 1) 本学大学院医科学専攻の入学を希望する。→ **3-3**へ
- 2) 本学他専攻もしくは国内外の他大学の大学院を希望する。→ **3-2**へ

3-2 本学大学院医科学専攻以外の大学院の入学を希望する理由は何ですか？（複数解答可能、最も合致するもの一つに◎）

- 1) 研究内容（具体的に _____)
- 2) 経済的な理由等で地元から通学したい 3) 就職が有利 4) 就活が楽、経済的
- 5) 学歴 6) 家族、知人の意見
- 7) その他（ _____)

3-3 現在、博士前期課程修了後の進路についてどのように考えていますか？

- 1) 就職したい → **4**へ
- 2) 大学院博士後期課程に進学したい → **5**へ
- 3) その他（ _____) → **4-3**へ 4) 分からない → **6**へ

4 以下にお答えください。

4-1 どのような職種に就職希望ですか？（複数解答可能、最も合致するもの一つに◎）

- 1) 公務員 2) 研究職
- 3) 営業職 4) 総合職
- 5) その他（ _____) 6) 分からない

4-2 どのような分野に就職希望ですか？（複数解答可能、最も合致するもの一つに◎）

- 1) 公務員（具体的に _____) 2) 製薬メーカー
- 3) 医療機器メーカー 4) 食品メーカー 5) その他のメーカー（ _____)
- 6) MR 7) 臨床開発モニター（CRA） 8) 胚培養士 9) 認定遺伝子カウンセラー
- 10) 出版業 11) その他（ _____) 12) 分からない

4-3 **3-3**で大学院博士後期課程に進学しない理由は何ですか？（複数解答可能、最も合致するもの一つに◎）

- 1) 早く働きたい 2) 就学時の経済的な問題 3) 向いているかどうか、修了できるかどうか不安
- 4) 将来の進路が不安 5) 生活の問題（結婚や出産など） 6) 家族や知人の意見 7) 研究に興味がない
- 8) その他（ _____)

4-4 就職後、必要を感じたら大学院博士後期課程に進学したい場合にのみお答えください。

- 1) 本学大学院医科学専攻博士後期課程の入学を希望する。
- 2) 本学他専攻もしくは国内外の他大学の大学院（博士後期課程）の入学を希望する。

6 へお進みください。

5 以下にお答えください。

5-1 現在、博士後期課程の進路についてどのように考えていますか？

- 1) 本学大学院医科学専攻の入学を希望する。 → **5-3** へ
- 2) 本学他専攻もしくは国内外の他大学の大学院を希望する。 → **5-2** へ

5-2 本学大学院医科学専攻以外の大学院の入学を希望する理由は何ですか？（複数解答可能、最も合致するもの一つに◎）

- 1) 研究内容（具体的に _____ ）
- 2) 経済的な理由等で地元から通学したい 3) 就職が有利 4) 就活が楽、経済的
- 5) 学歴 6) 家族、知人の意見
- 7) その他（ _____ ）

5-3 現在、博士後期課程修了後、どのような職種に就職希望ですか？（複数解答可能、最も合致するもの一つに◎）

- 1) 大学教員 2) その他公的研究機関の研究職 3) 企業の研究職
- 4) バイオサイエンスの事業化(起業) 5) その他（ _____ ）
- 6) 分からない

次ページ、**6** へお進みください。

6 現在、将来に進路について悩んでいることがありましたら教えてください。

7 進路について教員との面談を希望する場合は、以下に面談希望教員名、簡単な相談内容、連絡先（メールアドレスだけで結構です）を記入ください。なお、連絡先情報（登録メール以外）はこの面談目的以外に使用しません。

設問は、以上です。ご協力、ありがとうございました。

学部在学生に対するアンケート

	生命		看護		検査	
	2年次	3年次	2年次	3年次	2年次	3年次
在学生数	41	45	75	84	38	43
回答数	38	35	47	75	27	42
回答率	92.7%	77.8%	62.7%	89.3%	71.1%	97.7%

1.入学前にどのような就職先を希望していましたか？

	生命		看護		検査		全体	
	2年次	3年次	2年次	3年次	2年次	3年次	2年次	3年次
1)民間企業(製薬会社等)	13	13	2	2	1	3	16	18
2)医療機関	17	8	44	65	27	39	88	112
3)教育機関	2	1	1	4	0	1	3	6
4)研究機関	17	16	0	0	0	5	17	21
5)公務員	4	1	5	14	1	1	10	16
6)進学(大学院、留学)	24	21	3	5	2	11	29	37
7)その他	2	2	0	1	0	0	2	3

2.現在は、どのような進路を希望していますか？

	生命		看護		検査		全体	
	2年次	3年次	2年次	3年次	2年次	3年次	2年次	3年次
1)民間企業(製薬会社等)	14	14	1	2	0	4	15	20
2)医療機関	11	4	44	70	27	39	82	113
3)教育機関	3	0	3	5	0	1	6	6
4)研究機関	16	10	0	0	0	3	16	13
5)公務員	4	3	6	10	2	1	12	14
6)進学(大学院、留学)	26	21	3	6	3	13	32	40
7)その他	3	8	0	1	0	0	3	9

3.研究だけを進めるのではなく、研究に加えてスペシャリストとして強化するプログラムを医学系研究科の大学医院に設定することをどのように思いますか？

	生命		看護		検査		全体	
	2年次	3年次	2年次	3年次	2年次	3年次	2年次	3年次
1)大変良いことで意味がある	19	13	9	7	3	13	31	33
2)良いことである	13	19	23	44	18	25	54	88
3)あまり意味がない	2	0	0	0	0	0	2	0
4)全く意味がない	0	0	0	1	0	0	0	1
5)わからない	4	3	15	23	6	3	25	29

4.上記のような、医科学専攻の大学院教育(博士前期・後期課程)の社会的需要は、今後増えると思いますか？

博士前期	生命		看護		検査		全体	
	2年次	3年次	2年次	3年次	2年次	3年次	2年次	3年次
1)増える	25	23	20	19	11	22	56	64
2)変わらない	3	1	10	11	5	6	18	18
3)減る	2	1	0	1	1	0	3	2
4)わからない	8	10	16	44	10	14	34	68

博士後期	生命		看護		検査		全体	
	2年次	3年次	2年次	3年次	2年次	3年次	2年次	3年次
1)増える	19	19	20	16	10	16	49	51
2)変わらない	7	4	9	11	3	7	19	22
3)減る	1	1	0	1	2	1	3	3
4)わからない	10	11	17	47	10	17	37	75

5.大学院(博士前期課程・後期課程)への進学についてどのように考えていますか？

博士前期	生命		看護		検査		全体	
	2年次	3年次	2年次	3年次	2年次	3年次	2年次	3年次
1)進学したい	24	15	0	2	1	6	25	23
医科学専攻を希望	12	5	0	0	0	4	12	9
他の大学院	9	6	0	0	1	2	10	8
その他	2	4	0	2	0	0	2	6
2)どちらかといえば、進学したい	4	9	2	4	2	7	8	20
医科学専攻を希望	1	5	0	1	2	4	3	10
他の大学院	2	3	2	2	0	1	4	6
その他	1	1	0	1	0	2	1	4
3)就職後、必要を感じたら進学したい	1	3	16	23	6	7	23	33
医科学専攻を希望	0	1	5	5	1	1	6	7
他の大学院	1	2	7	14	4	6	12	22
その他	0	0	3	4	1	0	4	4
4)進学を希望しない	5	4	24	42	11	18	40	64
5)分からない	4	4	5	4	7	4	16	12
6)その他	0	0	0	0	0	0	0	0

博士後期	生命		看護		検査		全体	
	2年次	3年次	2年次	3年次	2年次	3年次	2年次	3年次
1)進学したい	10	2	0	1	0	2	10	5
医科学専攻を希望	6	0	0	0	0	2	6	2
他の大学院	4	1	0	0	0	0	4	1
その他	0	0	0	1	0	0	0	1
2)どちらかといえば、進学したい	1	8	2	3	1	3	4	14
医科学専攻を希望	0	2	0	0	1	3	1	5
他の大学院	1	7	2	2	0	0	3	9
その他	0	0	0	1	0	0	0	1
3)就職後、必要を感じたら進学したい	6	6	13	22	6	8	25	36
医科学専攻を希望	0	0	6	6	1	1	7	7
他の大学院	4	4	4	12	4	5	12	21
その他	2	2	2	4	1	1	5	7
4)進学を希望しない	9	10	24	42	13	20	46	72
5)分からない	12	9	8	7	7	9	27	25
6)その他	0	0	0	0	0	0	0	0

5-1.上記で「1)進学したい」「2)どちらかといえば、進学したい」「3)就職後、必要を感じたら進学したい」と回答した場合、どの大学への進学を希望しますか？

博士前期	生命		看護		検査		全体	
	2年次	3年次	2年次	3年次	2年次	3年次	2年次	3年次
1)鳥取大学の大学院(医科学専攻)を希望する。	14	11	5	6	3	9	22	26
2)国内の他大学の大学院を希望する。	13	11	9	16	5	9	27	36
3)その他	3	5	3	7	1	2	7	14
決めていない・分からない・迷っている 必要と感じたものの研究をしているところに。 4年生で所属する研究室次第	11							

博士後期	生命		看護		検査		全体	
	2年次	3年次	2年次	3年次	2年次	3年次	2年次	3年次
1)鳥取大学の大学院(医科学専攻)を希望する。	7	3	6	6	2	7	15	16
2)国内の他大学の大学院を希望する。	11	13	7	14	4	6	22	33
3)その他	2	2	2	6	1	1	5	9
分からない・未定	8							

5-2.上記で「4)進学を希望しない」と回答した場合、その理由は何ですか？(複数回答可)

博士前期	生命		看護		検査		全体	
	2年次	3年次	2年次	3年次	2年次	3年次	2年次	3年次
1)経済的な問題	1	1	15	14	5	13	21	28
2)就職	4	4	15	28	6	7	25	39
3)生活の問題(結婚や家族の意見等)	2	0	4	6	1	1	7	7
4)就学期間の長さ	0	1	6	9	5	5	11	15
5)年齢	0	0	8	3	2	1	10	4
6)その他	1	0	0	3	0	0	1	3

博士後期	生命		看護		検査		全体	
	2年次	3年次	2年次	3年次	2年次	3年次	2年次	3年次
1)経済的な問題	2	2	14	15	6	13	22	30
2)就職	5	6	16	28	7	7	28	41
3)生活の問題(結婚や家族の意見等)	4	2	5	7	2	1	11	10
4)就学期間の長さ	0	4	6	10	7	6	13	20
5)年齢	4	0	7	3	4	2	15	5
6)その他	1	0	0	3	0	0	1	3

6.どのような分野に興味がありますか？

	生命		看護		検査		全体	
	2年次	3年次	2年次	3年次	2年次	3年次	2年次	3年次
1)基礎医学・基礎医科学	27	18	10	12	10	15	47	45
2)チーム医療	3	5	26	36	20	21	49	62
3)生命・医療倫理、医療安全	7	7	10	16	1	2	18	25
4)創薬・医療機器・診療技術開発	22	23	3	1	9	17	34	41
5)橋渡し研究実践	7	7	0	2	0	2	7	11
6)イノベーション創出	3	4	0	2	0	1	3	7
7)バイオサイエンス事業化	6	8	1	0	0	4	7	12
8)教育体験	2	1	2	13	1	2	5	16
9)包括的地域支援	3	0	12	19	0	3	15	22
10)特定行為研修	3	1	3	6	1	4	7	11
11)健康保持増進・生活支援システム	2	3	11	15	0	3	13	21
12)認定遺伝カウンセラー研修	8	5	4	2	6	7	18	14
13)その他	2	2	1	5	0	1	3	8

救急
細胞診検査士
看護
臨床心理
在宅医療
分からない
デザイン、コピー

7.どのような大学院なら無理をしても進学したいと思いますか？(複数回答可)

	生命		看護		検査		全体	
	2年次	3年次	2年次	3年次	2年次	3年次	2年次	3年次
1)修了後スペシャリストとして社会で活躍できる教育が受けられる	27	26	26	49	18	29	71	104
2)研究者としての基礎が構築できる	17	16	2	3	5	7	24	26
3)高度な技術や知識が得られる	18	21	30	34	15	26	63	81
4)世界レベルの最先端研究ができる	19	19	9	12	7	10	35	41
5)倫理的思考基盤が得られる	8	6	3	8	1	6	12	20
6)その他	2	3	0	6	0	1	2	10

興味がある分野
 近場、実家の近く
 何らかの資格を得られる
 したいことできる
 大学院には進学したくない
 無理をしても進学しようとは思いません
 資格が取れる

8.医科学専攻に入学した場合、どのようなスペシャリストになりたいと思いますか？(複数回答可)

	生命		看護		検査		全体	
	2年次	3年次	2年次	3年次	2年次	3年次	2年次	3年次
1)診療技術・治療薬開発者	19	25	0	4	9	17	28	46
2)企業研究者	22	20	1	2	0	6	23	28
3)官公庁職員	9	4	4	6	0	1	13	11
4)バイオサイエンス企業家	4	6	2	1	0	0	6	7
5)大学職員・研究者	14	10	1	12	2	5	17	27
6)高度医療実践者	10	3	6	5	6	9	22	17
7)専門看護師	2	0	26	51	0	0	28	51
8)病院看護師	1	0	21	33	0	0	22	33
9)病院検査技師	3	0	1	1	22	27	26	28
10)トランスレーショナル医学を実践する研究者	4	1	0	0	0	0	4	1
11)保健学教育者	1	0	2	16	0	2	3	18
12)認定遺伝カウンセラー	6	6	1	4	2	5	9	15
13)包括的地域医療実践者	2	0	9	12	0	2	11	14

鳥取大学大学院医学系研究科医科学専攻の設置に関するアンケート
【学部在学生】

本年1月に標記アンケートを実施いたしましたが、進級から5ヶ月を経た現在の状況について、再度アンケートを実施いたします。平成32年4月設置を予定している医科学専攻の概要（別紙）をご確認いただき、以下のアンケートにお答えください。なお、このアンケートの結果は、医科学専攻設置に向けた検討や説明に使用する貴重な資料とさせていただきます。この目的以外には使用いたしません。

選択で回答するものは、該当する番号に○をつけ、記入して回答するものについては、具体的にご記入ください。（回答所要時間 約5分）

あなた自身についてお聞きします。

学年と所属学科（専攻）を選んで下さい。

学 年 1) 1年生 2) 2年生 3) 3年生 4) 4年生
所属学科 1) 生命科学科 2) 保健学科（看護学専攻） 3) 保健学科（検査技術科学専攻）

1. 入学前にどのような就職先を希望していましたか？（複数回答可）

1) 民間企業（製薬会社等） 2) 医療機関 3) 教育機関 4) 研究機関
5) 公務員 6) 進学（大学院、留学） 7) その他（ ）

2. 現在は、どのような進路を目指していますか？（複数回答可）

1) 民間企業（製薬会社等） 2) 医療機関 3) 教育機関 4) 研究機関
5) 公務員 6) 進学（大学院、留学） 7) その他（ ）

3. 研究だけを進めるのではなく、研究に加えてスペシャリストとして強化するプログラムを医学系研究科の大学院に設定することをどのように思いますか？

1) 大変良いことで意味がある 2) 良いことである 3) あまり意味がない
4) 全く意味が無い 5) わからない

4. 上記のような、医科学専攻における大学院教育（博士前期課程・後期課程）の社会的需要は、今後増えると思いますか？

博士前期課程 1) 増える 2) 変わらない 3) 減る 4) 分からない
博士後期課程 1) 増える 2) 変わらない 3) 減る 4) 分からない

5. 大学院（博士前期課程・後期課程）への進学についてどのように考えていますか？

博士前期課程

1) 進学したい 2) どちらかといえば、進学したい
3) 就職後、必要を感じたら進学したい 4) 進学を希望しない
5) 分からない 6) その他（ ）

博士後期課程

1) 進学したい 2) どちらかといえば、進学したい
3) 就職後、必要を感じたら進学したい 4) 進学を希望しない
5) 分からない 6) その他（ ）

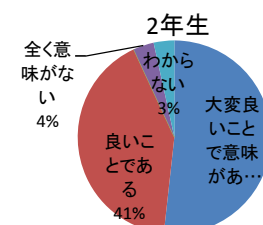
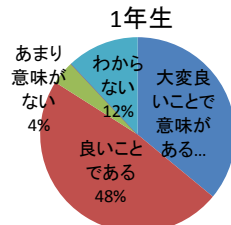
鳥取大学大学院医学系研究科医科学専攻の設置に関するアンケート
【米子工業高等専門学校専攻科 在学生】

回答者属性(所属学科・学年)

	1年生	2年生	配布数	回収数	回収率
生産システム工学専攻	18	18	19	21	94.7%
物質工学専攻	3	7	3	7	100%
建築学専攻	4	4	4	5	100%

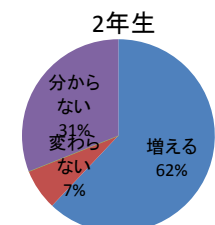
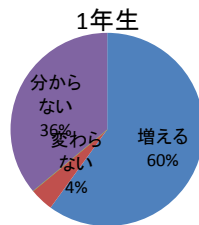
1. 研究だけを進めるのではなく、研究に加えてスペシャリストとして強化するプログラムを医学系研究科の大学院に設定することをどのように思いますか？

	1年生	2年生
大変良いことで意味がある	9	15
良いことである	12	12
あまり意味がない	1	0
全く意味がない	0	1
わからない	3	1

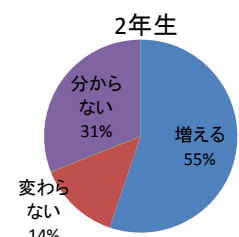
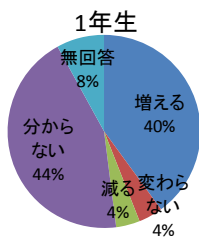


2. 上記のような、医科学専攻における大学院教育(博士前期課程・後期課程)の社会的需要は、今後増えると思いますか？

博士前期	1年生	2年生
増える	15	18
変わらない	1	2
減る	0	0
分からない	9	9



博士後期	1年生	2年生
増える	10	16
変わらない	1	4
減る	1	0
分からない	11	9
無回答	2	0



3. 大学院(博士前期課程・後期課程)への進学についてどのように考えていますか？

博士前期課程	1年生	2年生
進学したい	5	12
どちらかといえば、進学したい	5	6
就職後、必要を感じたら進学したい	10	5
進学を希望しない	3	6
分からない	2	0
その他	0	0

博士後期課程	1年生	2年生
進学したい	4	4
どちらかといえば、進学したい	7	8
就職後、必要を感じたら進学したい	7	8
進学を希望しない	5	7
分からない	3	1
その他	0	0

3-1. 上記で「1)進学したい」「2)どちらかといえば、進学したい」「3)就職後、必要を感じたら進学したい」と回答した場合、どの大学への進学を希望しますか？

1年生

博士前期課程	進学したい	どちらかといえば 進学したい	就職後、 必要を感じたら
鳥取大学の大学院	3	5	7
国内の他大学の大学院	2	0	2
その他	0	0	1

博士後期課程	進学したい	どちらかといえば 進学したい	就職後、 必要を感じたら
鳥取大学の大学院	3	5	4
国内の他大学の大学院	1	1	2
その他	0	0	1

2年生

博士前期課程	進学したい	どちらかといえば 進学したい	就職後、 必要を感じたら
鳥取大学の大学院	3	5	7
国内の他大学の大学院	2	0	2
その他	0	0	1

博士後期課程	進学したい	どちらかといえば 進学したい	就職後、 必要を感じたら
鳥取大学の大学院	3	5	4
国内の他大学の大学院	1	1	2
その他	0	0	1

3-2. 上記で「4)進学を希望しない」と回答した場合、その理由は何ですか？（複数回答可）

博士前期	1年生	2年生
経済的な問題	3	4
就職	1	2
生活の問題	0	1
就学期間の長さ	1	3
年齢	1	0
その他	0	1

博士後期	1年生	2年生
経済的な問題	2	5
就職	0	4
生活の問題	1	2
就学期間の長さ	1	4
年齢	1	1
その他	0	0

4. どのような大学院なら無理をしてでも進学したいと思いますか？（複数回答可）

	1年生	2年生
修了後スペシャリストとして社会で活躍 できる教育が受けられる	15	21
研究者としての基礎が構築できる	9	10
高度な技術や知識が得られる	18	17
世界レベルの最先端研究ができる	9	9
論理的思考基盤が得られる	7	5
その他	1	1

5. 医科学専攻に入学した場合、どのようなスペシャリストになりたいと思いますか？（複数回答可）

	1年生	2年生
診断技術・治療薬開発者	13	11
企業研究者	12	20
官公庁職員	6	4
バイオサイエンス起業家	5	4
大学教員・研究者	10	9
高度医療実践者	3	5
専門看護師	2	0
病院看護師	1	0
病院検査技師	3	4
トランスレーショナル医学を実践する研究者	3	1
保健学教育者	2	3
認定遺伝カウンセラー	3	1
包括的地域医療実践者	3	2

鳥取大学大学院医学系研究科医科学専攻の設置に関するアンケート
【米子工業高等専門学校 専攻科在学生】

鳥取大学大学院医学系研究科では、生命科学専攻、機能再生医科学専攻及び保健学専攻を融合した、新たな専攻として、平成 32 年 4 月に医科学専攻を設置することを検討しています。特に米子工業高等専門学校と本学医学部とは包括連携協力に関する協定を締結しており、医工連携をさらに押し進めていきたいと考えております。その医工連携に関わる人材を養成するため、この度改組する医科学専攻に貴校からは是非とも進学していただきたいと考えています。

設置にあたり関係者からのご意見をいただくため、アンケートを実施いたします。なお、このアンケートの結果は、医科学専攻設置に向けた検討や説明に使用する貴重な資料とさせていただきます。この目的以外には使用いたしません。

医科学専攻とは

高度な基礎医学を習得することで、疾病に対する理解を深め、医師の視点も兼ね備えた判断能力を教育したいと考えています。そのうえで、基礎医学、生命科学、機能再生医科学、保健学（看護・検査）を融合した医科学を基盤に疾病モデルの開発と、診断・治療・予防の原理に関する基盤研究および家庭・地域における身体健康維持法を研究するとともに、トランスレーショナル・イノベーション創出教育を行い、新しい予防・診断方法、創薬や医療機器の開発を担える人材、基礎医学教員及び保健学教員、包括的地域支援実践者を養成する専攻です。医学的知識を学ぶために、基礎医学教員も一部主担当となることを予定しています。

また、医科学コース及び保健学コースの 2 つのコースを設置する予定です。

医科学コースでは、シーズの開拓から、研究成果の実用化までを担える、医学的知識を持った人材を養成し、授与する学位は修士（医科学）、博士（医科学）を予定しています。保健学コースでは、高度の医学知識を持ち、一億総活躍社会に対応した医療・看護を発展させることができる包括的地域支援実践者を養成し、授与する学位は修士（保健学）、博士（保健学）を予定しています。

博士前期課程では、基盤的教育科目群として、基礎医科学の講義・演習、チーム医療体験、保健医療現場を通じた生命・医療倫理教育、医療安全教育及び知財教育を行い、専門職業人養成科目群として、世界標準の予防・検査・診断法教育、橋渡し研究の実践教育、イノベーション創出教育、バイオサイエンス事業化教育及び包括的地域支援教育を実施します。さらに、特定行為に係る科目も選択できるよう検討中です。

養成する人材像としては、創薬・医療機器・診断技術開発者、認定遺伝カウンセラー、超音波検査士等の高度臨床実践者、専門看護師及び特定行為のできる看護師等です。

博士後期課程では、医学専攻と共通した専門医学科目の設定、鳥取大学が実践する医工農連携を現場としたイノベーション教育や事業化教育、モデル動物の作製等の臨床研究、最先端検査技術・診断法の開発研究、家庭・地域でのフィールド研究などを行います。さらに、博士前期で学ぶ基礎医学に関する講義も選択できます。

養成する人材像としては、バイオサイエンス企業家、基礎医学教育研究者及び保健学教員等です。

選択で回答するものは、該当する番号に○をつけ、記入して回答するものについては、具体的にご記入下さい。（回答所要時間 約 5 分）

あなた自身についてお聞きします。

学年と所属専攻を選んで下さい。

- 学 年 1) 1 年生 2) 2 年生
所属専攻 1) 生産システム工学専攻 2) 物質工学専攻 3) 建築学専攻

5. 医科学専攻に入学した場合、どのようなスペシャリストになりたいと思いますか？（複数回答可）

- | | | |
|--------------------------|----------------|------------|
| 1) 診断技術・治療薬開発者 | 2) 企業研究者 | 3) 官公庁職員 |
| 4) バイオサイエンス起業家 | 5) 大学教員・研究者 | 6) 高度医療実践者 |
| 7) 専門看護師 | 8) 病院看護師 | 9) 病院検査技師 |
| 10) トランスレーショナル医学を实践する研究者 | 11) 保健学教育者 | |
| 12) 認定遺伝カウンセラー | 13) 包括的地域医療実践者 | |

設問は以上です。ご回答、ありがとうございました。

鳥取大学大学院医学系研究科医科学専攻の設置に関するアンケート【工学部在学学生】

回答者属性

所属学科	2年生	3年生
機械物理系学科	91	5
電気情報系学科	92	108
化学バイオ系学科	67	90

博士前期課程への進学

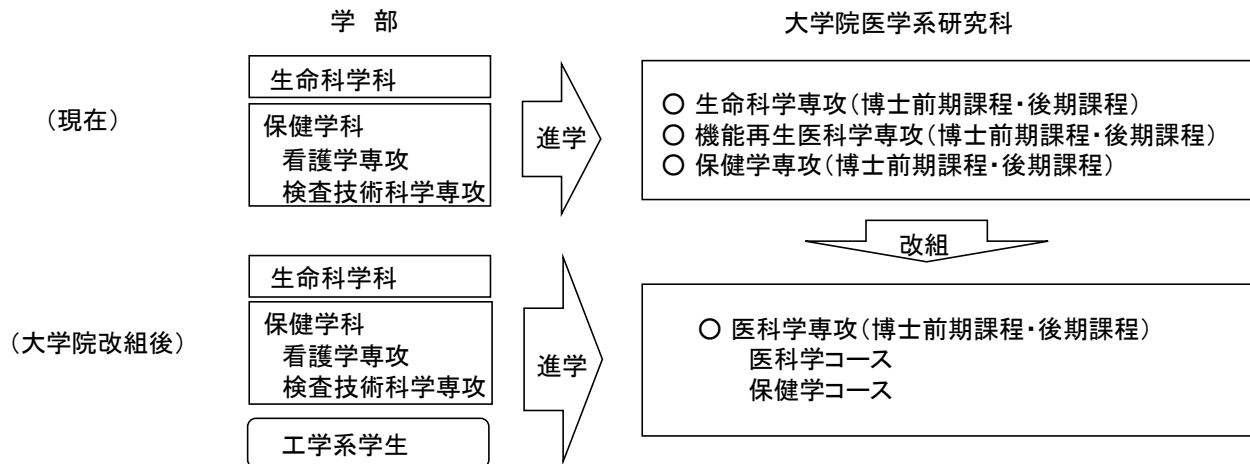
	2年生	3年生
進学したい	37	25
どちらかといえば、進学したい	40	39
就職後、必要を感じたら進学したい	19	20
進学を希望しない	84	89
分からない	67	31
その他	3	1

その他の記載:興味はある

博士後期課程への進学

	2年生	3年生
進学したい	21	12
どちらかといえば、進学したい	28	17
就職後、必要を感じたら進学したい	25	23
進学を希望しない	97	101
分からない	75	45
その他	1	0

新しい医学系大学院に関するアンケート



鳥取大学における医学部，大学院医学系研究科（医師養成分野を除く）の現状と将来計画

これまで、生命科学専攻では、分子・細胞レベルにおける生命に関する知識を身につけ、薬品の開発に携わる専門家や研究者を養成してきました。機能再生医科学専攻では遺伝子及び再生医療の知識を身につけた専門家や研究者を養成してきました。保健学専攻では高度な知識を身につけた専門看護師や専門臨床検査技師を養成してきました。

しかしながら、医療が高度化している現在においては、これらの分野の横断的な知識や、直接には診療に関わらない分野であっても、医学の基礎知識を身につけていることが求められるようになっていきます。さらに診断技術や医療技術の進歩はめざましく、工学との連携もますます重要となり、本学においても現在、本学工学部や米子工業高等専門学校と連携した数々の医工連携の研究プロジェクトを進めており、これまで医療用シミュレータロボット、患者見守りシステム、車いすロボット等数多くの製品の開発が進んでいます。

そこで、これまでの生命科学専攻、機能再生医科学専攻、保健学専攻を改組し、医学科の教員も参加した医科学専攻を設置する計画を進めています。医科学専攻では、医学の基礎知識を含む幅広い知識を持って、病院や地域における高度臨床実践者、創薬・医療機器・診断技術に関する研究開発者、バイオサイエンス起業家、基礎医学研究者などの養成を目指しており、機械工学、電子情報工学、化学や生物工学などを学んだ工学系学生の進学も期待しています。

このような新しい大学院の設置に関する工学系の学生の関心を調査するため、次のアンケートに回答をお願いします。（裏面にもあります）

あなたの所属と学年について該当するものに○をつけて下さい。

所属 ・ 機械物理系学科 ・ 電気情報系学科 ・ 化学バイオ系学科 ・ 社会システム土木系学科

大学院持続性社会創生科学研究科工学専攻

- ・ 機械宇宙工学コース
- ・ 情報エレクトロニクスコース
- ・ 化学バイオコース
- ・ 社会システム土木コース
- ・ メタンハイドレート科学コース

学年 ・ 1 年生 ・ 2 年生 ・ 3 年生 ・ 4 年生

1. 学部の学生さんに伺います。以上の説明をお読みいただき、大学院医学系研究科医科学専攻の博士前期課程への進学についてどのように考えますか？

- | | |
|---------------------|------------------|
| 1) 進学したい | 2) どちらかと言えば進学したい |
| 3) 就職後、必要を感じたら進学したい | 4) 進学を希望しない |
| 5) 分からない | 6) その他 () |

2. 学部の学生さんと大学院の学生さんの双方に伺います。以上の説明をお読みいただき、大学院医学系研究科医科学専攻の博士後期課程への進学についてどのように考えますか？

- | | |
|---------------------|------------------|
| 1) 進学したい | 2) どちらかと言えば進学したい |
| 3) 就職後、必要を感じたら進学したい | 4) 進学を希望しない |
| 5) 分からない | 6) その他 () |

設問は以上です。ご回答ありがとうございました。

鳥取大学大学院医学系研究科医科学専攻の設置に関するアンケート【看護部】

回答数

回答総数	148
対象者数	513
回収率	28.8%

1. 医科学専攻の大学院教育（博士前期・後期課程）の社会的需要は、今後増えると思いますか？

	博士前期課程	博士後期課程
増える	63	61
変わらない	30	28
減る	0	0
わからない	54	57
無回答	1	2

2. あなたの組織に医科学専攻で養成する人材がいると仮定した場合、組織のメリットになると思いますか？

強く思う	24
思う	97
思わない	5
わからない	20
無回答	2

3. 研究だけを進めるのではなく、研究に加えてスペシャリストとして強化するプログラムを医学系研究科の大学院に設定することをどのように思いますか？

大変良いことで意味がある	32
良いことである	93
あまり意味がない	6
全く意味がない	0
わからない	16
無回答	1

4. 社会人になっても就学できる医科学専攻の社会人大学院制度は必要であると思いますか？

必要である	113
必要ではない	2
わからない	30
無回答	3

5. あなたの職場では、潜在的に医科学修士・博士の学位取得希望者はいると思いますか？

	博士前期課程	博士後期課程
いる	78	63
いない	5	6
わからない	63	78
無回答	2	1

6. 大学院(博士前期課程・後期課程)への進学についてどのように考えていますか？

	博士前期課程	博士後期課程
進学したい	6	3
どちらかといえば、進学したい	18	15
就職後、必要を感じたら進学したい	23	17
進学を希望しない	62	62
分からない	28	43
既に学位(修士)を取得済みである	5	1
その他	5	5
無回答	1	2

その他の記載:

在籍中
よくわからない
大学卒ではないので入学資格がない
退職間近であり、その先は他を検討。

6-1. 上記で「1)進学したい」「2)どちらかといえば、進学したい」「3)就職後、必要を感じたら進学したい」と回答した場合、どの大学への進学を希望しますか？

博士前期課程

	鳥取大学の大学院 (医科学専攻)を希望する	国内の他大学の 大学院を希望する	その他
進学したい	5	1	0
どちらかといえば、進学したい	16	2	0
就職後、必要を感じたら進学したい	13	3	4

その他の記載:

希望の研究室のある場所へ進学したいため。
希望時の状況に応じて選択肢は変わる為
自分の希望に合った大学
深めたい分野があるなら場所は問わない。

博士後期課程

	鳥取大学の大学院 (医科学専攻)を希望する	国内の他大学の 大学院を希望する	その他
進学したい	3	0	0
どちらかといえば、進学したい	15	0	0
就職後、必要を感じたら進学したい	9	3	3

その他の記載:

よくわからない。
現在博士後期課程在学中
大学卒ではないので関係がないと思っている
特に興味なし。

6-2. 上記で「4)進学を希望しない」と回答した場合、その理由は何ですか？(複数回答可)

	博士前期課程	博士後期課程
経済的な問題	13	15
就職	4	4
生活の問題(結婚や家族の意見等)	28	31
就学期間の長さ	11	13
年齢	25	25
その他	11	10

その他の記載(博士前期課程):

学士を持っていないため
 興味がない
 興味が無いため
 現在の職場環境に満足しているため、進学して新たに学ぶ必要性を今現在は感じていないため。
 今の自分には必要性を感じていないため
 自分にとって必要性を感じない。
 進学に関して興味があまりない
 特に興味がありません。
 必要性を感じない。研究業務に携わりたくない。

その他の記載(博士後期課程):

学士を持っていないため
 興味がない
 興味が無いため
 現在の職場環境に満足しているため、進学して新たに学ぶ必要性を今現在は感じていないため。
 今の自分には必要性を感じないため
 同上
 特に興味がありません。
 必要性を感じない。研究業務に携わりたくない。

鳥取大学大学院医学系研究科医科学専攻の設置に関するアンケート
【看護部】

鳥取大学大学院医学系研究科では、生命科学専攻、機能再生医科学専攻及び保健学専攻を融合した、新たな専攻として、平成 32 年 4 月に医科学専攻を設置することを検討しています。看護部におかれましては、これまでも保健学専攻への進学をご自身のキャリアの幅を広げるための選択肢として検討いただいていたと思いますが、新たな医科学専攻では高度な基礎医学知識が習得できるカリキュラムとし、自らの専門性をさらに高めることができる以下の内容で検討を進めております。設置にあたり関係者からのご意見をいただくため、アンケートを実施いたします。

なお、このアンケートの結果は、医科学専攻設置に向けた検討や説明に使用する貴重な資料とさせていただきます。この目的以外には使用いたしません。

医科学専攻の概要

高度な基礎医学を習得することで、疾病に対する理解を深め、医師の視点も兼ね備えた判断能力を教育したいと考えています。そのうえで、基礎医学、生命科学、機能再生医科学、保健学（看護・検査）を融合した医科学を基盤に疾病モデルの開発と、診断・治療・予防の原理に関する基盤研究および家庭・地域における身体健康維持法を研究するとともに、トランスレーショナル・イノベーション創出教育を行い、新しい予防・診断方法、創薬や医療機器の開発を担える人材、基礎医学教員及び保健学教員、包括的地域支援実践者を養成する専攻です。医学的知識を学ぶために、基礎医学教員も一部主担当となることを予定しています。

また、医科学コース及び保健学コースの 2 つのコースを設置する予定です。

医科学コースでは、シーズの開拓から、研究成果の実用化までを担える、医学的知識を持った人材を養成し、授与する学位は修士（医科学）、博士（医科学）を予定しています。保健学コースでは、高度の医学知識を持ち、一億総活躍社会に対応した医療・看護を発展させることができる包括的地域支援実践者を養成し、授与する学位は修士（保健学）、博士（保健学）を予定しています。

博士前期課程では、基盤的教育科目群として、基礎医科学の講義・演習、チーム医療体験、保健医療現場を通じた生命・医療倫理教育、医療安全教育及び知財教育を行い、専門職業人養成科目群として、世界標準の予防・検査・診断法教育、橋渡し研究の実践教育、イノベーション創出教育、バイオサイエンス事業化教育及び包括的地域支援教育を実施します。さらに、特定行為に係る科目も選択できるよう検討中です。

養成する人材像としては、創薬・医療機器・診断技術開発者、認定遺伝カウンセラー、超音波検査士等の高度臨床実践者、専門看護師及び特定行為のできる看護師、包括的地域支援実践者等です。

博士後期課程では、医学専攻と共通した専門医学科目の設定、鳥取大学が実践する医工農連携を現場としたイノベーション教育や事業化教育、モデル動物の作製等の臨床研究、最先端検査技術・診断法の開発研究、家庭・地域でのフィールド研究などを行います。さらに、博士前期で学ぶ基礎医学に関する講義も選択できます。

養成する人材像としては、バイオサイエンス企業家、基礎医学教育研究者及び保健学教員等です。

選択で回答するものは、該当する番号に○をつけ、記入して回答するものについては、具体的にご記入ください。(回答所要時間 約 5 分)

1. 医科学専攻の大学院教育（博士前期・後期課程）の社会的需要は、今後増えると思いますか？

- | | | | | |
|--------|--------|----------|-------|----------|
| 博士前期課程 | 1) 増える | 2) 変わらない | 3) 減る | 4) わからない |
| 博士後期課程 | 1) 増える | 2) 変わらない | 3) 減る | 4) わからない |

2. あなたの組織に医科学専攻で養成する人材がいると仮定した場合、組織のメリットになると思いますか？

- | | | | |
|---------|-------|---------|----------|
| 1) 強く思う | 2) 思う | 3) 思わない | 4) わからない |
|---------|-------|---------|----------|

3. 研究だけを進めるのではなく、研究に加えてスペシャリストとして強化するプログラムを医学系研究科の大学院に設定することをどのように思いますか？

- 1) 大変良いことで意味がある 2) 良いことである 3) あまり意味が無い
4) 全く意味が無い 5) わからない

4. 社会人になっても就学できる医科学専攻の社会人大学院制度は必要であると思いますか？

- 1) 必要である 2) 必要ではない 3) わからない

5. あなたの職場では、潜在的に医科学修士・博士の学位取得希望者はいると思いますか？

- 修士 1) いる 2) いない 3) わからない
博士 1) いる 2) いない 3) わからない

6. 大学院（博士前期課程・後期課程）への進学についてどのように考えていますか？

博士前期課程

- 1) 進学したい 2) どちらかといえば、進学したい
3) 就職後、必要を感じたら進学したい 4) 進学を希望しない
5) 分からない 6) すでに学位（修士）を取得済みである
7) その他（ ）

博士後期課程

- 1) 進学したい 2) どちらかといえば、進学したい
3) 就職後、必要を感じたら進学したい 4) 進学を希望しない
5) 分からない 6) すでに学位（博士）を取得済みである
7) その他（ ）

6-1. 上記で「1）進学したい」「2）どちらかといえば、進学したい」「3）就職後、必要を感じたら進学したい」と回答した場合、どの大学への進学を希望しますか？

博士前期課程

- 1) 鳥取大学の大学院（医科学専攻）を希望する。
2) 国内の他大学の大学院を希望する。
3) その他（ ）

博士後期課程

- 1) 鳥取大学の大学院（医科学専攻）を希望する。
2) 国内の他大学の大学院を希望する。
3) その他（ ）

6-2. 上記で「4）進学を希望しない」と回答した場合、その理由は何ですか？（複数回答可）

博士前期課程

- 1) 経済的な問題 2) 就職 3) 生活の問題（結婚や家族の意見等）
4) 就学期間の長さ 5) 年齢 6) その他（ ）

博士後期課程

- 1) 経済的な問題 2) 就職 3) 生活の問題（結婚や家族の意見等）
4) 就学期間の長さ 5) 年齢 6) その他（ ）

設問は以上です。ご回答、ありがとうございました。

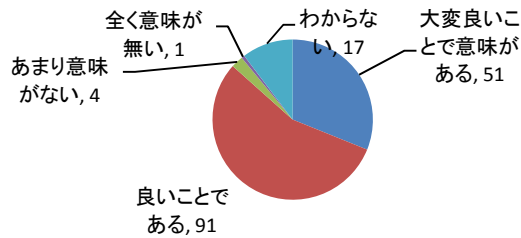
鳥取大学大学院医学系研究科医科学専攻の設置に関するアンケート
【米子工業高等専門学校 在学生】

回答者属性(所属学科・学年)

	5年生	配布数	回収率
機械工学科	34	39	87.2%
電気情報工学科	36	39	92.3%
電子制御工学科	31	33	93.9%
物質工学科	26	38	68.4%
建築学科	38	43	88.4%

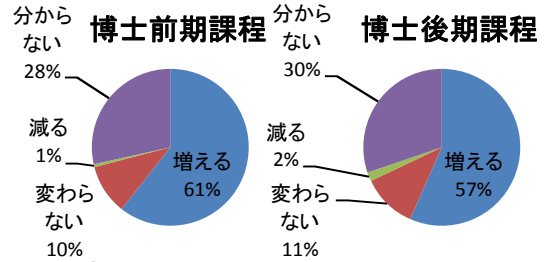
1. 研究だけを進めるのではなく、研究に加えてスペシャリストとして強化するプログラムを医学系研究科の大学院に設定することをどのように思いますか？

大変良いことで意味がある	51
良いことである	91
あまり意味がない	4
全く意味が無い	1
わからない	17



2. 上記のような、医科学専攻における大学院教育(博士前期課程・後期課程)の社会的需要は、今後増えると思いますか？

	博士前期課程	博士後期課程
増える	100	90
変わらない	17	18
減る	1	3
分からない	47	48



3. 大学院(博士前期課程・後期課程)への進学についてどのように考えていますか？

	博士前期課程	博士後期課程
進学したい	23	15
どちらかといえば、進学したい	17	13
就職後、必要を感じたら進学したい	41	37
進学を希望しない	55	63
分からない	28	34
その他	0	0

3-1. 上記で「1)進学したい」「2)どちらかといえば、進学したい」「3)就職後、必要を感じたら進学したい」と回答した場合、どの大学への進学を希望しますか？

博士前期課程	進学したい	どちらかといえば進学したい	就職後、必要を感じたら
鳥取大学の大学院	7	4	10
国内の他大学の大学院	14	12	25
その他	2	1	3

その他の記載:

具体的に考えてはいないので決められない
海外
会社近く又は北大
決まってない

博士後期課程	進学したい	どちらかといえば 進学したい	就職後、 必要を感じたら
鳥取大学の大学院	4	3	11
国内の他大学の大学院	9	10	21
その他	1	2	2

その他の記載：
決められない
海外
決まってない

3-2. 上記で「4)進学を希望しない」と回答した場合、その理由は何ですか？(複数回答可)

	博士前期課程	博士後期課程
経済的な問題	18	18
就職	45	46
生活の問題(結婚や家族の意見等)	10	11
就学期間の長さ	8	10
年齢	4	6
その他	6	7

その他の記載：
やりたい事ではない
他にやりたい事がある
頭がよくない
興味がない
モチベーション
大きな必要性を感じない

4. どのような大学院なら無理をしても進学したいと思いますか？(複数回答可)

修了後スペシャリストとして社会で活躍できる教育が受けられる	70
研究者としての基礎が構築できる	51
高度な技術や知識が得られる	78
世界レベルの最先端研究ができる	47
論理的思考基盤が得られる	31
その他	12

その他の記載：
自分の好きな内容
社会に多大な貢献になる研究ができる
実践が可能
仕事と両立できる
学歴的に誇れる
将来が約束されている
犬の殺処分がなくせる
楽しいかつお金が入る。
興味がない
ない

5. 医科学専攻に入学した場合、どのようなスペシャリストになりたいと思いますか？(複数回答可)

診断技術・治療薬開発者	50
企業研究者	59
官公庁職員	27
バイオサイエンス起業家	32
大学教員・研究者	33
高度医療実践者	19
専門看護師	10
病院看護師	7
病院検査技師	17
トランスレーショナル医学を実践する研究者	9
保健学教育者	12
認定遺伝カウンセラー	6
包括的地域医療実践者	7

鳥取大学大学院医学系研究科医科学専攻の設置に関するアンケート
【米子工業高等専門学校 在学生】

鳥取大学大学院医学系研究科では、生命科学専攻、機能再生医科学専攻及び保健学専攻を融合した、新たな専攻として、平成32年4月に医科学専攻を設置することを検討しています。特に米子工業高等専門学校と本学医学部とは包括連携協力に関する協定を締結しており、医工連携をさらに押し進めていきたいと考えております。その医工連携に関わる人材を養成するため、この度改組する医科学専攻に貴校からは是非とも進学していただきたいと考えています。

設置にあたり関係者からのご意見をいただくため、アンケートを実施いたします。なお、このアンケートの結果は、医科学専攻設置に向けた検討や説明に使用する貴重な資料とさせていただきます。この目的以外には使用いたしません。

医科学専攻とは

高度な基礎医学を習得することで、疾病に対する理解を深め、医師の視点も兼ね備えた判断能力を教育したいと考えています。そのうえで、基礎医学、生命科学、機能再生医科学、保健学（看護・検査）を融合した医科学を基盤に疾病モデルの開発と、診断・治療・予防の原理に関する基盤研究および家庭・地域における身体健康維持法を研究するとともに、トランスレーショナル・イノベーション創出教育を行い、新しい予防・診断方法、創薬や医療機器の開発を担える人材、基礎医学教員及び保健学教員、包括的地域支援実践者を養成する専攻です。医学的知識を学ぶために、基礎医学教員も一部主担当となることを予定しています。

また、医科学コース及び保健学コースの2つのコースを設置する予定です。

医科学コースでは、シーズの開拓から、研究成果の実用化までを担える、医学的知識を持った人材を養成し、授与する学位は修士（医科学）、博士（医科学）を予定しています。保健学コースでは、高度の医学知識を持ち、一億総活躍社会に対応した医療・看護を発展させることができる包括的地域支援実践者を養成し、授与する学位は修士（保健学）、博士（保健学）を予定しています。

博士前期課程では、基盤的教育科目群として、基礎医科学の講義・演習、チーム医療体験、保健医療現場を通じた生命・医療倫理教育、医療安全教育及び知財教育を行い、専門職業人養成科目群として、世界標準の予防・検査・診断法教育、橋渡し研究の実践教育、イノベーション創出教育、バイオサイエンス事業化教育及び包括的地域支援教育を実施します。さらに、特定行為に係る科目も選択できるよう検討中です。

養成する人材像としては、創薬・医療機器・診断技術開発者、認定遺伝カウンセラー、超音波検査士等の高度臨床実践者、専門看護師及び特定行為のできる看護師等です。

博士後期課程では、医学専攻と共通した専門医学科目の設定、鳥取大学が実践する医工農連携を現場としたイノベーション教育や事業化教育、モデル動物の作製等の臨床研究、最先端検査技術・診断法の開発研究、家庭・地域でのフィールド研究などを行います。さらに、博士前期で学ぶ基礎医学に関する講義も選択できます。

養成する人材像としては、バイオサイエンス企業家、基礎医学教育研究者及び保健学教員等です。

選択で回答するものは、該当する番号に○をつけ、記入して回答するものについては、具体的にご記入下さい。（回答所要時間 約5分）

あなた自身についてお聞きします。

学年と所属学科を選んで下さい。

- | | | | |
|------|----------|------------|------------|
| 学 年 | 1) 4年生 | 2) 5年生 | |
| 所属学科 | 1) 機械工学科 | 2) 電気情報工学科 | 3) 電子制御工学科 |
| | 4) 物質工学科 | 5) 建築学科 | |

5. 医科学専攻に入学した場合、どのようなスペシャリストになりたいと思いますか？（複数回答可）

- | | | |
|--------------------------|----------------|------------|
| 1) 診断技術・治療薬開発者 | 2) 企業研究者 | 3) 官公庁職員 |
| 4) バイオサイエンス起業家 | 5) 大学教員・研究者 | 6) 高度医療実践者 |
| 7) 専門看護師 | 8) 病院看護師 | 9) 病院検査技師 |
| 10) トランスレーショナル医学を实践する研究者 | 11) 保健学教育者 | |
| 12) 認定遺伝カウンセラー | 13) 包括的地域医療実践者 | |

設問は以上です。ご回答、ありがとうございました。

修士1年生に対するアンケート

調査期間：平成30年9月～平成30年10月

	生命 1年次	機能再生 1年次	保健 1年次	保健(検査) 1年次	保健(看護) 1年次
在 student 数	11	12	14		
回答数	7	8	9	7	2
回答率	63.6%	66.7%	64.3%		

1.本専攻に入学した理由

	生命 1年次	機能再生 1年次	保健 1年次	検査	看護
専門分野に興味があった	5	8	5	5	0
教育内容に魅力があった	0	0	1	0	1
将来関係分野への就職に有利	0	1	2	2	0
専門的な資格を取得したかった	0	0	1	1	0
両親から勧められた	0	0	0	0	0
先輩から勧められた	0	0	0	0	0
自分の能力レベルに相応	1	0	0	0	0
自宅等からの通学に便利	0	0	1	0	1
その他	1	0	1	1	0

2.受験しようとした時期

		生命 1年次	機能再生 1年次	保健 1年次	検査	看護	計
3年次	12月		1				1
	1月			1	1		1
	2月		1				1
	3月	1	1	1	1		3
4年次	4月	3	2	2	2		7
	5月			1	1		1
	6月	2					2
	7月						0
	8月		2	1	1		3
2017年次3月		1					以下は、学部生以外の 回答と思われる
H25年次12月			1				
社会人3年目					1	1	
2017年次8月					1	1	
2017年次10月					1	1	

3.受験を決定する際、本専攻について知りたかった情報

	生命 1年次	機能再生 1年次	保健 1年次	検査	看護
専攻の特色	2	4	5	4	1
授業内容	4	4	2	2	0
将来の就職先	3	4	2	2	0
取得できる資格	0	0	2	2	0
教員の研究内容	2	3	2	1	1
学費・奨学金	1	1	2	1	1
在 student の感想	1	3	1	1	0
その他			1		1

社会人通学のしやすさ

4.現時点での最終学歴終了後の進路

	生命 1年次	機能再生 1年次	保健 1年次	検査	看護
民間企業(製薬会社等)	6	7	0	0	0
医療機関	0	0	9	7	2
教育機関	0	0	0	0	0
研究機関	1	2	0	0	0
公務員	1	1	0	0	0
その他	0	0	0	0	0

5.大学院に望むカリキュラム

	生命 1年次	機能再生 1年次	保健 1年次	検査	看護
専門分野を進化させるカリキュラム	4	7	7	5	2
専門外の分野を学ぶカリキュラム	2	1	0	0	0
プレゼンテーションや論文の書き方等、研究に役立つカリキュラム	3	5	2	2	0
論理的な考え方を強化するカリキュラム	2	1	3	3	0
研究時間が欲しいので余計なカリキュラムは不要	2	2	3	3	0

6.課程修了時までには修得したいもの

	生命 1年次	機能再生 1年次	保健 1年次	検査	看護
医学・医療分野の高度な知識・技術(大学教員、研究者)	3	6	2	2	2
医学・医療分野の実践的活用力(最先端の検査・診断技術、製品開発等)	2	2	7	5	5
包括的地域支援実践力(病院看護師、特定行為のできる看護師 等)	0	0	0	0	0
分野にとらわれない研究力・技術開発力	4	1	2	2	2
課題を発掘しプロジェクトを企画する力	4	2	1	1	1
IT時代に適応できる力	0	2	1	1	1
技術経営、知的財産管理の知識	0	0	0	0	0
生命医療倫理の知識	1	0	0	0	0
文系分野も含む幅広い教養	1	0	0	0	0
グループで仕事をする力(リーダーシップ、チームワーク)	1	2	0	0	0
海外進出のできる国際的コミュニケーション能力(語学力、文化理解)	1	1	1	0	0
その他	0	0	0	0	0

7.医科学専攻で実施する教育についてどのような分野に興味があるか

	生命 1年次	機能再生 1年次	保健 1年次	検査	看護
基礎医学・基礎医科学	5	5	4	3	1
チーム医療	1	0	0	0	0
生命・医療倫理、医療安全	1	0	1	1	0
世界標準の予防・検査・診断・治療法	2	2	6	5	1
橋渡し研究実践	2	4	2	1	1
イノベーション創出	2	1	1	1	0
バイオサイエンス事業化	3	2	1	1	0
教育体験	0	1	0	0	0
包括的地域支援	1	1	0	0	0
特定行為研修	0	0	2	0	2
健康保持増進・生活支援システム	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0

8. 医科学専攻の博士後期課程に進学したいと思いますか

	生命 1年次	機能再生 1年次	保健 1年次	検査	看護
進学したい	0	0	2	2	0
どちらかといえば、進学したい	0	0	3	2	1
就職後、必要を感じたら進学したい	3	2	1	1	0
進学を希望しない	4	5	2	2	0
分からない	0	1	1	0	1
その他	0	0	0	0	0

2-1. 上記で「4) 進学を希望しない」と回答した理由

	生命 1年次	機能再生 1年次	保健 1年次	検査	看護
経済的な問題	1	1	0	0	0
就職	3	5	2	2	0
生活の問題(結婚や家族の意見等)	0	1	0	0	0
就学期間の長さ	2	2	0	0	0
年齢	1	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0

9. 教員が医科学専攻を担当するメリットがあると思うか

	生命 1年次	機能再生 1年次	保健 1年次	検査	看護
強く思う	0	0	3	3	0
どちらかと言えば思う	3	4	2	1	1
どちらとも言えない(わからない)	3	3	4	3	1
どちらかと言えば思わない	0	1	0	0	0
全く思わない	0	0	0	0	0

10. その他、医科学専攻の設置に関してご意見がございましたらご自由にご記入ください。
 他の専攻同士での交流が少なすぎると思う。長期研究室にいても、他の研究室の先生が何について研究しているか知らない感じ。分野は違っても学問としては同門なので共同研究のチャンスはいくらでもありそうだが、接点が少なすぎる故全てが独立しているかんじ。あとは先生方が忙しすぎて自分の研究以外に手を回せていない。
 現在、私は保健学専攻に所属していますが、他にも生命科学専攻、機能再生科学専攻があります。そこには垣根のようなものがある気がしておりました。医療学専攻と1つの名前にすることで、その垣根が少しでも小さくなると感じております。
 研究費取れるレベルの研究室だけで良いです

6. 課程修了時までには修得したいものを、次の中から選択してください。(複数選択可)

- 1) 医学・医療分野の高度な知識・技術 (大学教員、研究者)
- 2) 医学・医療分野の実践的活用力 (最先端の検査・診断技術、製品開発等)
- 3) 包括的地域支援実践力 (病院看護師、特定行為のできる看護師 等)
- 4) 分野にとらわれない研究力・技術開発力
- 5) 課題を発掘しプロジェクトを企画する力
- 6) IT時代に適応できる力
- 7) 技術経営、知的財産管理の知識
- 8) 生命医療倫理の知識
- 9) 文系分野も含む幅広い教養
- 10) グループで仕事をする力 (リーダーシップ、チームワーク)
- 11) 海外進出のできる国際的コミュニケーション能力 (語学力、文化理解)
- 12) その他 ()

7. 医科学専攻では、次のような分野の教育を実施いたします。どのような分野に興味がありますか？(複数回答可)

- | | | |
|----------------------|---------------------|-----------------|
| 1) 基礎医学・基礎医科学 | 2) チーム医療 | 3) 生命・医療倫理、医療安全 |
| 4) 世界標準の予防・検査・診断・治療法 | 5) 橋渡し研究実践 | 6) イノベーション創出 |
| 7) バイオサイエンス事業化 | 8) 教育体験 | 9) 包括的地域支援 |
| 10) 特定行為研修 | 11) 健康保持増進・生活支援システム | |
| 12) その他 () | | |

8. 医科学専攻の博士後期課程に進学したいと思いますか？

- | | |
|---------------------|-------------------|
| 1) 進学したい | 2) どちらかといえば、進学したい |
| 3) 就職後、必要を感じたら進学したい | 4) 進学を希望しない |
| 5) 分からない | 6) その他 () |

2-1. 上記で「4) 進学を希望しない」と回答した場合、その理由は何ですか？(複数回答可)

- | | | |
|------------|-------|----------------------|
| 1) 経済的な問題 | 2) 就職 | 3) 生活の問題 (結婚や家族の意見等) |
| 4) 就学期間の長さ | 5) 年齢 | 6) その他 () |

9. 鳥取大学医学部の医学科、生命科学科、保健学科及び医学系研究科の機能再生医科学専攻の教員が医科学専攻を担当することにメリットがあると思いますか？

- | | | |
|-----------------|---------------|----------------------|
| 1) 強く思う | 2) どちらかと言えば思う | 3) どちらとも言えない (わからない) |
| 4) どちらかと言えば思わない | 5) 全く思わない | |

10. その他、医科学専攻の設置に関してご意見がございましたらご自由にご記入ください。



質問は以上です。ご協力、ありがとうございました。

医科学専攻の概要

鳥取大学大学院医学系研究科では、生命科学専攻、機能再生医科学専攻及び保健学専攻を融合した、新たな専攻として、医科学専攻を設置することを検討しています。

医科学専攻とは

基礎医学、生命科学、再生医科学、保健学（看護・検査）を融合した医科学を基盤に疾病モデルの開発と、診断・治療・予防の原理に関する基盤研究および家庭・地域における身体健康維持法を研究するとともに、トランスレーショナル・イノベーション創出教育を行い、新しい予防・診断方法、創薬や医療機器の開発を担える人材、基礎医学教員及び保健学教員、包括的地域支援実践者を養成する専攻です。医学的知識を学ぶために、基礎医学教員も一部主担当となることを予定しています。

また、医科学コース及び保健学コースの2つのコースを設置する予定です。

医科学コースでは、シーズの開拓から、研究成果の実用化までを担える、医学的知識を持った人材を養成し、授与する学位は修士（医科学）、博士（医科学）を予定しています。保健学コースでは、高度の医学知識を持ち、一億総活躍社会に対応した医療・看護を発展させることができる包括的地域支援実践者を養成し、授与する学位は修士（保健学）、博士（保健学）を予定しています。

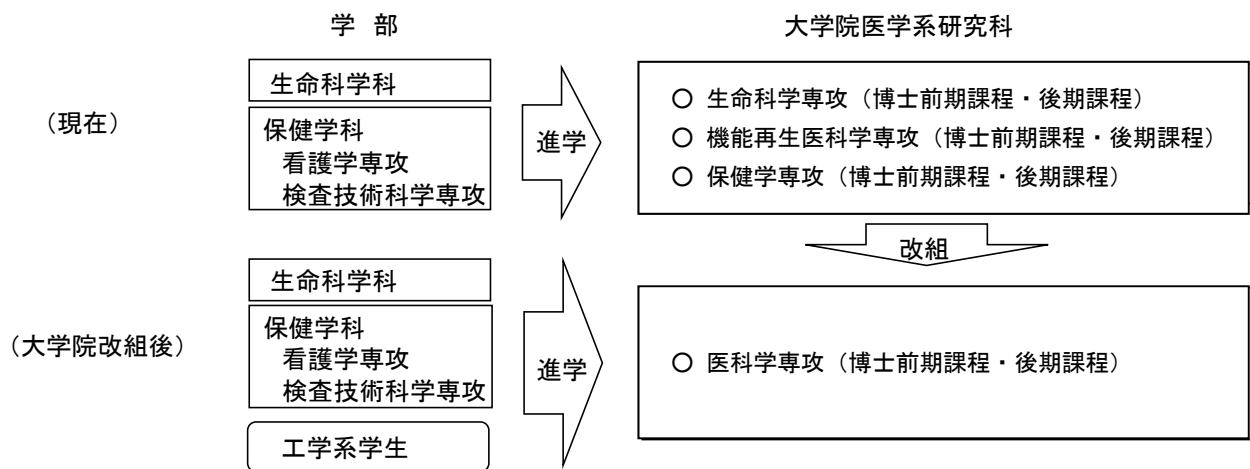
博士前期課程では、基盤的教育科目群として、基礎医科学の講義・演習、チーム医療体験、保健医療現場を通じた生命・医療倫理教育、医療安全教育及び知財教育を行い、専門職業人養成科目群として、世界標準の予防・検査・診断法教育、橋渡し研究の実践教育、イノベーション創出教育、バイオサイエンス事業化教育及び包括的地域支援教育を実施します。さらに、特定行為に係る科目も選択できるよう検討中です。

養成する人材像としては、創薬・医療機器・診断技術開発者、認定遺伝カウンセラー、超音波検査士等の高度臨床実践者、専門看護師及び特定行為のできる看護師等です。

博士後期課程では、医科学専攻と共通した専門医学科目の設定、鳥取大学が実践する医工農連携を現場としたイノベーション教育や事業化教育、モデル動物の作製等の臨床研究、最先端検査技術・診断法の開発研究、家庭・地域でのフィールド研究などを行います。さらに、博士前期で学ぶ基礎医学に関する講義も選択できます。

養成する人材像としては、バイオサイエンス企業家、基礎医学教育研究者及び保健学教員等です。

新しい医学系大学院に関するアンケート



鳥取大学における医学部，大学院医学系研究科（医師養成分野を除く）の現状と将来計画

これまで、大学院医学系研究科生命科学専攻では、分子・細胞レベルにおける生命に関する知識を身につけ、機能再生医科学専攻では遺伝子及び再生医療の知識を身につけた専門職業人や研究者を養成してきました。保健学専攻ではより深い知識を身につけた高度臨床実践者を養成してきました。

しかしながら、医療が高度化している現在においては、これら分野の横断的な知識や、直接には診療に関わらない分野であっても、医学の基礎知識を身につけていることが求められるようになっていきます。さらに診断技術や医療技術の進歩はめざましく、現在、医学部附属病院新規医療研究推進センターを中心に、地域企業の皆様方と連携し、数々の医工連携の研究プロジェクトを進めており、これまで医療用シミュレータロボット、歯科治療用マウスピース等数多くの製品の開発が進んでいます。

また、これまででは自然科学分野においては人間やその心があまり前面に出ない教育を行ってまいりました。しかしながら、近年の社会的ニーズとして、より人間の心を理解したうえで自然科学分野の発展に寄与する人材が求められています。

さらに、科学的根拠に基づき一億総活躍社会に対応した医療・保健・福祉を発展させることができる高度臨床実践者やそれら人材を養成する保健学教育・研究者も求められています。

そこで、本学では『心と科学の統合』を教育理念とし、これまでの生命科学専攻、機能再生医科学専攻、保健学専攻を改組・融合し、医学科の教員も参加した医科学専攻を2020年（平成32年）4月に設置し、医学の基礎知識を含む幅広い知識を持ち、より人間の心を理解できる、創薬・医療機器・診断技術等の関連企業での従事・研究者や、高度臨床実践者を博士前期課程（修士）で養成し、バイオサイエンス分野で事業化（起業）できるような能力を持った人材や、創薬・再生医療・医療機器分野での研究・開発者、さらには大学教育・研究者（基礎医学・生命科学・保健学）を博士後期課程で養成することを目指しております。

このような新しい大学院の設置に関して地域からのニーズとしてのご意見を調査し、設置に必要な申請書の資料とさせていただきたいと思っておりますので、次のアンケートに回答をお願いします。（裏面にもあります）

1. 上記説明をお読みいただき、大学院医学系研究科医科学専攻の**博士後期課程**への進学について、どのように考えていますか？
 - 1) 進学したい
 - 2) 進学を希望しない

アンケートの内容をもって貴殿にご迷惑をおかけするようなことは決してございません。
申請書の資料として利用させていただいた後は、保管期間が過ぎましたら確実に破棄いたします。

設問は以上です。ご回答ありがとうございました。

鳥取大学大学院医学系研究科医科学専攻の設置に関するアンケート【工学専攻在学生】

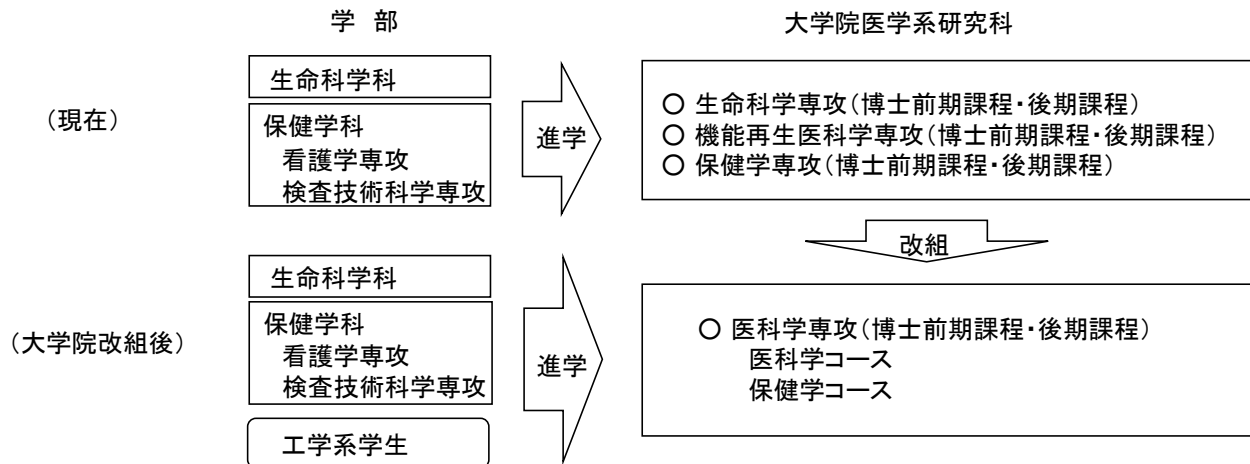
回答者属性

コース	1年生
情報エレクトロニクス	27
化学バイオ	23

博士後期課程への進学

	1年生
進学したい	8
どちらかといえば、進学したい	4
就職後、必要を感じたら進学したい	14
進学を希望しない	50
分からない	11
その他	0

新しい医学系大学院に関するアンケート



鳥取大学における医学部，大学院医学系研究科（医師養成分野を除く）の現状と将来計画

これまで、生命科学専攻では、分子・細胞レベルにおける生命に関する知識を身につけ、薬品の開発に携わる専門家や研究者を養成してきました。機能再生医科学専攻では遺伝子及び再生医療の知識を身につけた専門家や研究者を養成してきました。保健学専攻では高度な知識を身につけた専門看護師や専門臨床検査技師を養成してきました。

しかしながら、医療が高度化している現在においては、これらの分野の横断的な知識や、直接には診療に関わらない分野であっても、医学の基礎知識を身につけていることが求められるようになっていきます。さらに診断技術や医療技術の進歩はめざましく、工学との連携もますます重要となり、本学においても現在、本学工学部や米子工業高等専門学校と連携した数々の医工連携の研究プロジェクトを進めており、これまで医療用シミュレータロボット、患者見守りシステム、車いすロボット等数多くの製品の開発が進んでいます。

そこで、これまでの生命科学専攻、機能再生医科学専攻、保健学専攻を改組し、医学科の教員も参加した医科学専攻を設置する計画を進めています。医科学専攻では、医学の基礎知識を含む幅広い知識を持って、病院や地域における高度臨床実践者、創薬・医療機器・診断技術に関する研究開発者、バイオサイエンス起業家、基礎医学研究者などの養成を目指しており、機械工学、電子情報工学、化学や生物工学などを学んだ工学系学生の進学も期待しています。

このような新しい大学院の設置に関する工学系の学生の関心を調査するため、次のアンケートに回答をお願いします。（裏面にもあります）

あなたの所属と学年について該当するものに○をつけて下さい。

所属 ・ 機械物理系学科 ・ 電気情報系学科 ・ 化学バイオ系学科 ・ 社会システム土木系学科

大学院持続性社会創生科学研究科工学専攻

- ・ 機械宇宙工学コース
- ・ 情報エレクトロニクスコース
- ・ 化学バイオコース
- ・ 社会システム土木コース
- ・ メタンハイドレート科学コース

学年 ・ 1 年生 ・ 2 年生 ・ 3 年生 ・ 4 年生

1. 学部の学生さんに伺います。以上の説明をお読みいただき、大学院医学系研究科医科学専攻の博士前期課程への進学についてどのように考えますか？

- | | |
|---------------------|------------------|
| 1) 進学したい | 2) どちらかと言えば進学したい |
| 3) 就職後、必要を感じたら進学したい | 4) 進学を希望しない |
| 5) 分からない | 6) その他 () |

2. 学部の学生さんと大学院の学生さんの双方に伺います。以上の説明をお読みいただき、大学院医学系研究科医科学専攻の博士後期課程への進学についてどのように考えますか？

- | | |
|---------------------|------------------|
| 1) 進学したい | 2) どちらかと言えば進学したい |
| 3) 就職後、必要を感じたら進学したい | 4) 進学を希望しない |
| 5) 分からない | 6) その他 () |

設問は以上です。ご回答ありがとうございました。

鳥取看護大学の教員に対するアンケート

回答数 8人

1. 医科学専攻の大学院教育(博士前期・後期課程)の社会的需要は、今後増えると思いますか？

博士前期課程

1)増える	4
2)変わらない	1
3)減る	0
4)わからない	2

博士後期課程

1)増える	5
2)変わらない	1
3)減る	0
4)わからない	2

2. あなたの組織に医科学専攻で養成する人材がいると仮定した場合、組織のメリットになると思いますか？

1)強く思う	3
2)思う	5
3)思わない	0
4)わからない	0

3. 研究だけを進めるのではなく、研究に加えてスペシャリストとして強化するプログラムを医学系研究科の大学院に設定することをどのように思いますか？

1)大変良いことで意味がある	6
2)良いことである	2
3)あまり意味が無い	0
4)全く意味が無い	0
5)わからない	0

4. 社会人になっても就学できる医科学専攻の社会人大学院制度は必要であると思いますか？

1)必要である	8
2)必要ではない	0
3)わからない	0

5. あなたの職場では、潜在的に医科学修士・博士の学位取得希望者はいると思いますか？

修士

1)いる	3
2)いない	1
3)わからない	4

博士

1)いる	0
2)いない	0
3)わからない	0

6. 大学院(博士前期課程・後期課程)への進学についてどのように考えていますか？

博士前期課程

1)進学したい	0
2)どちらかといえば、進学したい	0
3)就職後、必要を感じたら進学したい	0
4)進学を希望しない	0
5)分からない	0
6)すでに学位(修士)を取得済みである	5
7)その他	2

博士後期課程

1)進学したい	1
2)どちらかといえば、進学したい	3
3)就職後、必要を感じたら進学したい	0
4)進学を希望しない	1
5)分からない	1
6)すでに学位(修士)を取得済みである	0
7)その他	1

上記で「1)進学したい」「2)どちらかといえば、進学したい」「3)就職後、必要を感じたら進学したい」と回答した場合、どの大学への進学を希望しますか？

博士前期課程

	進学したい	どちらかといえば	就職後
1)鳥取大学の大学院(医科学専攻)を希望する	0	0	0
2)国内の他大学の大学院を希望する。	0	0	0
3)その他	0	0	0

博士後期課程

	進学したい	どちらかといえば	就職後
1)鳥取大学の大学院(医科学専攻)を希望する	0	2	0
2)国内の他大学の大学院を希望する。	0	0	0
3)その他	1	0	0

無回答1名

上記で「4)進学を希望しない」と回答した場合、その理由は何ですか？(複数回答可)

博士前期課程

1)経済的な問題	0
2)就職	0
3)生活の問題(結婚や家族の意見等)	0
4)就学期間の長さ	0
5)年齢	1
6)その他	0

博士後期課程

1)経済的な問題	0
2)就職	0
3)生活の問題(結婚や家族の意見等)	0
4)就学期間の長さ	0
5)年齢	1
6)その他	0

鳥取大学大学院医学系研究科医科学専攻の設置に関するアンケート
【鳥取看護大学 教員】

鳥取大学大学院医学系研究科では、生命科学専攻、機能再生医科学専攻及び保健学専攻を融合した、新たな専攻として、平成 32 年 4 月より医科学専攻を設置することを検討しています。特に、貴学では平成 31 年 4 月より大学院教育を開始されると伺っております。貴学の教員の先生方におかれましては、博士後期課程に進学し、学位(博士)を取得したいとお考えの方もいらっしゃるのではないかと拝察いたします。そのような先生には、是非とも新たに設置する医科学専攻に進学いただければと考えております。

設置にあたり関係者からのご意見をいただくため、アンケートを実施いたします。なお、このアンケートの結果は、医科学専攻設置に向けた検討や説明に使用する貴重な資料とさせていただきます。この目的以外には使用いたしません。

医科学専攻とは

高度な基礎医学を習得することで、疾病に対する理解を深め、医師の視点も兼ね備えた判断能力を教育したいと考えています。そのうえで、基礎医学、生命科学、機能再生医科学、保健学(看護・検査)を融合した医科学を基盤に疾病モデルの開発と、診断・治療・予防の原理に関する基盤研究および家庭・地域における身体健康維持法を研究するとともに、トランスレーショナル・イノベーション創出教育を行い、新しい予防・診断方法、創薬や医療機器の開発を担える人材、基礎医学教員及び保健学教員、包括的地域支援実践者を養成する専攻です。医学的知識を学ぶために、基礎医学教員も一部主担当となることを予定しています。

また、医科学コース及び保健学コースの2つのコースを設置する予定です。

医科学コースでは、シーズの開拓から、研究成果の実用化までを担える、医学的知識を持った人材を養成し、授与する学位は修士(医科学)、博士(医科学)を予定しています。保健学コースでは、高度の医学知識を持ち、一億総活躍社会に対応した医療・看護を発展させることができる包括的地域支援実践者を養成し、授与する学位は修士(保健学)、博士(保健学)を予定しています。

博士前期課程では、基盤的教育科目群として、基礎医科学の講義・演習、チーム医療体験、保健医療現場を通じた生命・医療倫理教育、医療安全教育及び知財教育を行い、専門職業人養成科目群として、世界標準の予防・検査・診断法教育、橋渡し研究の実践教育、イノベーション創出教育、バイオサイエンス事業化教育及び包括的地域支援教育を実施します。さらに、特定行為に係る科目も選択できるよう検討中です。

養成する人材像としては、創薬・医療機器・診断技術開発者、認定遺伝カウンセラー、超音波検査士等の高度臨床実践者、専門看護師及び特定行為のできる看護師等です。

博士後期課程では、医学専攻と共通した専門医学科目の設定、鳥取大学が実践する医工農連携を現場としたイノベーション教育や事業化教育、モデル動物の作製等の臨床研究、最先端検査技術・診断法の開発研究、家庭・地域でのフィールド研究などを行います。さらに、博士前期で学ぶ基礎医学に関する講義も選択できます。

養成する人材像としては、バイオサイエンス企業家、基礎医学教育研究者及び保健学教員等です。

選択で回答するものは、該当する番号に○をつけ、記入して回答するものについては、具体的にご記入ください。(回答所要時間 約5分)

1. 医科学専攻の大学院教育(博士前期・後期課程)の社会的需要は、今後増えると思いますか?

- 博士前期課程 1) 増える 2) 変わらない 3) 減る 4) わからない
博士後期課程 1) 増える 2) 変わらない 3) 減る 4) わからない

2. あなたの組織に医科学専攻で養成する人材があると仮定した場合、組織のメリットになると思いますか?

- 1) 強く思う 2) 思う 3) 思わない 4) わからない

3. 研究だけを進めるのではなく、研究に加えてスペシャリストとして強化するプログラムを医学系研究科の大学院に設定することをどのように思いますか？

- 1) 大変良いことで意味がある 2) 良いことである 3) あまり意味が無い
4) 全く意味が無い 5) わからない

4. 社会人になっても就学できる医科学専攻の社会人大学院制度は必要であると思いますか？

- 1) 必要である 2) 必要ではない 3) わからない

5. あなたの職場では、潜在的に医科学修士・博士の学位取得希望者はいると思いますか？

- 修士 1) いる 2) いない 3) わからない
博士 1) いる 2) いない 3) わからない

6. 大学院（博士前期課程・後期課程）への進学についてどのように考えていますか？

博士前期課程

- 1) 進学したい 2) どちらかといえば、進学したい
3) 就職後、必要を感じたら進学したい 4) 進学を希望しない
5) 分からない 6) すでに学位（修士）を取得済みである
7) その他（ ）

博士後期課程

- 1) 進学したい 2) どちらかといえば、進学したい
3) 就職後、必要を感じたら進学したい 4) 進学を希望しない
5) 分からない 6) すでに学位（博士）を取得済みである
7) その他（ ）

6-1. 上記で「1）進学したい」「2）どちらかといえば、進学したい」「3）就職後、必要を感じたら進学したい」と回答した場合、どの大学への進学を希望しますか？

博士前期課程

- 1) 鳥取大学の大学院（医科学専攻）を希望する。
2) 国内の他大学の大学院を希望する。
3) その他（ ）

博士後期課程

- 1) 鳥取大学の大学院（医科学専攻）を希望する。
2) 国内の他大学の大学院を希望する。
3) その他（ ）

6-2. 上記で「4）進学を希望しない」と回答した場合、その理由は何ですか？（複数回答可）

博士前期課程

- 1) 経済的な問題 2) 就職 3) 生活の問題（結婚や家族の意見等）
4) 就学期間の長さ 5) 年齢 6) その他（ ）

博士後期課程

- 1) 経済的な問題 2) 就職 3) 生活の問題（結婚や家族の意見等）
4) 就学期間の長さ 5) 年齢 6) その他（ ）

設問は以上です。ご回答、ありがとうございました。

鳥取大学大学院医学系研究科医科学専攻の設置に関するアンケート【保健学科教員】

対象教員：博士の学位が無い教員2名

1. 大学院にどのようなカリキュラムを望みますか？（複数選択可）

専門分野を進化させるカリキュラム	2
専門外の分野を学ぶカリキュラム	0
プレゼンテーションや論文の書き方等、 研究に役立つカリキュラム	2
論理的な考え方を強化するカリキュラム	0
研究時間が欲しいので 余計なカリキュラムは不要	0

2. 課程修了時までまでに修得したいものを、次の中から選択してください。（複数選択可）

医学・医療分野の高度な知識・技術 （大学教員、研究者）	2
医学・医療分野の実践的活用力 （最先端の検査・診断技術、製品開発等）	0
包括的地域支援実践力（病院看護師、 特定行為のできる看護師 等）	0
分野にとらわれない研究力・技術開発力	0
課題を発掘しプロジェクトを企画する力	1
IT時代に適応できる力	0
技術経営、知的財産管理の知識	0
生命医療倫理の知識	1
文系分野も含む幅広い教養	0
グループで仕事をする力 （リーダーシップ、チームワーク）	0
海外進出のできる国際的コミュニケーション 能力（語学力、文化理解）	0
その他	0

3. 医科学専攻では、次のような分野の教育を実施いたします。どのような分野に興味がありますか？（複数回答可）

基礎医学・基礎医科学	1
チーム医療	1
生命・医療倫理、医療安全	1
世界標準の予防・検査・診断・治療法	0
橋渡し研究実践	0
イノベーション創出	0
バイオサイエンス事業化	0
教育体験	0
包括的地域支援	1
特定行為研修	0
健康保持増進・生活支援システム	1
その他	0

4. 医科学専攻の博士後期課程に進学したいと思いますか？

進学したい	1
どちらかといえば、進学したい	1
就職後、必要を感じたら進学したい	0
進学を希望しない	0
分からない	0
その他	0

5. 鳥取大学医学部の医学科、生命科学科、保健学科及び医学系研究科の機能再生医科学専攻の教員が医科学専攻を担当することにメリットがあると思いますか？

強く思う	1
どちらかと言えば思う	1
どちらとも言えない(わからない)	0
どちらかと言えば思わない	0
全く思わない	0

6. その他、医科学専攻の設置に関してご意見がございましたらご自由にご記入ください。
 新たな医科学専攻となったことでの受験生のメリットは何なのかと思います。これまでと違うニーズに合った多くの科目から選択できるということなののでしょうか？

鳥取大学大学院医学系研究科医科学専攻の設置に関するアンケート
【鳥取看護大学 教員】

鳥取大学大学院医学系研究科では、生命科学専攻、機能再生医科学専攻及び保健学専攻を融合した、新たな専攻として、平成 32 年 4 月より医科学専攻を設置することを検討しています。特に、貴学では平成 31 年 4 月より大学院教育を開始されると伺っております。貴学の教員の先生方におかれましては、博士後期課程に進学し、学位(博士)を取得したいとお考えの方もいらっしゃるのではないかと拝察いたします。そのような先生には、是非とも新たに設置する医科学専攻に進学いただければと考えております。

設置にあたり関係者からのご意見をいただくため、アンケートを実施いたします。なお、このアンケートの結果は、医科学専攻設置に向けた検討や説明に使用する貴重な資料とさせていただきます。この目的以外には使用いたしません。

医科学専攻とは

高度な基礎医学を習得することで、疾病に対する理解を深め、医師の視点も兼ね備えた判断能力を教育したいと考えています。そのうえで、基礎医学、生命科学、機能再生医科学、保健学(看護・検査)を融合した医科学を基盤に疾病モデルの開発と、診断・治療・予防の原理に関する基盤研究および家庭・地域における身体健康維持法を研究するとともに、トランスレーショナル・イノベーション創出教育を行い、新しい予防・診断方法、創薬や医療機器の開発を担える人材、基礎医学教員及び保健学教員、包括的地域支援実践者を養成する専攻です。医学的知識を学ぶために、基礎医学教員も一部主担当となることを予定しています。

また、医科学コース及び保健学コースの2つのコースを設置する予定です。

医科学コースでは、シーズの開拓から、研究成果の実用化までを担える、医学的知識を持った人材を養成し、授与する学位は修士(医科学)、博士(医科学)を予定しています。保健学コースでは、高度の医学知識を持ち、一億総活躍社会に対応した医療・看護を発展させることができる包括的地域支援実践者を養成し、授与する学位は修士(保健学)、博士(保健学)を予定しています。

博士前期課程では、基盤的教育科目群として、基礎医科学の講義・演習、チーム医療体験、保健医療現場を通じた生命・医療倫理教育、医療安全教育及び知財教育を行い、専門職業人養成科目群として、世界標準の予防・検査・診断法教育、橋渡し研究の実践教育、イノベーション創出教育、バイオサイエンス事業化教育及び包括的地域支援教育を実施します。さらに、特定行為に係る科目も選択できるよう検討中です。

養成する人材像としては、創薬・医療機器・診断技術開発者、認定遺伝カウンセラー、超音波検査士等の高度臨床実践者、専門看護師及び特定行為のできる看護師等です。

博士後期課程では、医学専攻と共通した専門医学科目の設定、鳥取大学が実践する医工農連携を現場としたイノベーション教育や事業化教育、モデル動物の作製等の臨床研究、最先端検査技術・診断法の開発研究、家庭・地域でのフィールド研究などを行います。さらに、博士前期で学ぶ基礎医学に関する講義も選択できます。

養成する人材像としては、バイオサイエンス企業家、基礎医学教育研究者及び保健学教員等です。

選択で回答するものは、該当する番号に○をつけ、記入して回答するものについては、具体的にご記入ください。(回答所要時間 約5分)

1. 医科学専攻の大学院教育(博士前期・後期課程)の社会的需要は、今後増えると思いますか?

- 博士前期課程 1) 増える 2) 変わらない 3) 減る 4) わからない
博士後期課程 1) 増える 2) 変わらない 3) 減る 4) わからない

2. あなたの組織に医科学専攻で養成する人材がいると仮定した場合、組織のメリットになると思いますか?

- 1) 強く思う 2) 思う 3) 思わない 4) わからない

3. 研究だけを進めるのではなく、研究に加えてスペシャリストとして強化するプログラムを医学系研究科の大学院に設定することをどのように思いますか？

- 1) 大変良いことで意味がある 2) 良いことである 3) あまり意味が無い
4) 全く意味が無い 5) わからない

4. 社会人になっても就学できる医科学専攻の社会人大学院制度は必要であると思いますか？

- 1) 必要である 2) 必要ではない 3) わからない

5. あなたの職場では、潜在的に医科学修士・博士の学位取得希望者はいると思いますか？

- 修士 1) いる 2) いない 3) わからない
博士 1) いる 2) いない 3) わからない

6. 大学院（博士前期課程・後期課程）への進学についてどのように考えていますか？

博士前期課程

- 1) 進学したい 2) どちらかといえば、進学したい
3) 就職後、必要を感じたら進学したい 4) 進学を希望しない
5) 分からない 6) すでに学位（修士）を取得済みである
7) その他（ ）

博士後期課程

- 1) 進学したい 2) どちらかといえば、進学したい
3) 就職後、必要を感じたら進学したい 4) 進学を希望しない
5) 分からない 6) すでに学位（博士）を取得済みである
7) その他（ ）

6-1. 上記で「1）進学したい」「2）どちらかといえば、進学したい」「3）就職後、必要を感じたら進学したい」と回答した場合、どの大学への進学を希望しますか？

博士前期課程

- 1) 鳥取大学の大学院（医科学専攻）を希望する。
2) 国内の他大学の大学院を希望する。
3) その他（ ）

博士後期課程

- 1) 鳥取大学の大学院（医科学専攻）を希望する。
2) 国内の他大学の大学院を希望する。
3) その他（ ）

6-2. 上記で「4）進学を希望しない」と回答した場合、その理由は何ですか？（複数回答可）

博士前期課程

- 1) 経済的な問題 2) 就職 3) 生活の問題（結婚や家族の意見等）
4) 就学期間の長さ 5) 年齢 6) その他（ ）

博士後期課程

- 1) 経済的な問題 2) 就職 3) 生活の問題（結婚や家族の意見等）
4) 就学期間の長さ 5) 年齢 6) その他（ ）

設問は以上です。ご回答、ありがとうございました。

鳥取大学大学院医学系研究科医科学専攻の設置に関するアンケート【企業・医療機関】

回答数:111社

1. 一般的に、博士前期課程(修士)修了生にさらに博士後期課程においてどのような能力や知識を持った人材育成をすればよいとお考えでしょうか？(複数回答可)

医学・医療分野の高度な知識・技術(大学教員、研究者)	47	42.3%
医学・医療分野の実践的活用力(最先端の検査・診断技術、製品開発等)	65	58.6%
包括的地域支援実践力(病院看護師、特定行為のできる看護師等)	28	25.2%
分野にとらわれない研究力・技術開発力	48	43.2%
課題を発掘しプロジェクトを企画する力	49	44.1%
IT時代に適応できる力	32	28.8%
技術経営、知的財産管理の知識	10	9.0%
生命医療倫理の知識	25	22.5%
文系分野も含む幅広い教養	16	14.4%
グループで仕事をする力(リーダーシップ、チームワーク)	57	51.4%
海外進出のできる国際的コミュニケーション能力(語学力、文化理解)	27	24.3%
その他	5	4.5%

その他の記載:

殊に医学専攻では、拡く関わる方々とのコミュニケーション能力や柔軟性を要求されますので、幅広い教養をお持ち頂きたいと思えます。

人間性

リハビリテーションの基礎・理念を理解している人材の育成

栄養学

むずかしくてわからない

製造業、医療、福祉:57社

医学・医療分野の高度な知識・技術(大学教員、研究者)	20	35.1%
医学・医療分野の実践的活用力(最先端の検査・診断技術、製品開発等)	29	50.9%
包括的地域支援実践力(病院看護師、特定行為のできる看護師等)	15	26.3%
分野にとらわれない研究力・技術開発力	24	42.1%
課題を発掘しプロジェクトを企画する力	27	47.4%
IT時代に適応できる力	17	29.8%
技術経営、知的財産管理の知識	5	8.8%
生命医療倫理の知識	12	21.1%
文系分野も含む幅広い教養	9	15.8%
グループで仕事をする力(リーダーシップ、チームワーク)	30	52.6%
海外進出のできる国際的コミュニケーション能力(語学力、文化理解)	15	26.3%
その他	3	5.3%

2. 質問1でお答えいただいたような力を身につけた人材が、貴社・貴院では必要だと思われますか？

強く思う	26
思う	56
思わない	19
わからない	10

3. 質問2で「1)強く思う」、「2)思う」とお答えになった場合、そのような人材をどのように確保していますか？(複数回答可)

大学や専門学校を活用	50
ハローワークを活用	24
その他の求人媒体を活用	18
自社で養成	21
人材紹介会社を活用	10
人材派遣会社を利用	2
知人からの紹介を活用	20
その他	5

その他の記載:

- 大学など外部組織との協力体制
- 採用試験
- 採用枠は現在なし
- 社内人材を活用
- 現状、確保しているとは言い難い

4. 社会人学生として入学する(入学させる)場合に、どのような能力・知識を身につけたい(つけさせたい)とお考えでしょうか？(複数選択可)

医学・医療分野の高度な知識・技術(大学教員、研究者)	28
医学・医療分野の実践的活用力(最先端の検査・診断技術、製品開発等)	47
包括的地域支援実践力(病院看護師、特定行為のできる看護師等)	25
分野にとらわれない研究力・技術開発力	46
課題を発掘しプロジェクトを威嚇する力	51
IT時代に適応できる力	32
技術経営、知的財産管理の知識	15
生命医療倫理の知識	16
文系分野も含む幅広い教養	17
グループで仕事をする力(リーダーシップ、チームワーク)	58
海外進出のできる国際的コミュニケーション能力(語学力、文化理解)	20
その他	3

その他の記載:

- 生命医療倫理も含め、市民レベルでの倫理観。
- 学生としての入社は制度として設けていない。
- 論文執筆

5. 社会人学生として博士後期課程に入学した(させた)場合にしてみたい(させてみたい)ことはどんなことですか？(複数回答可)

教員とのディスカッション	23
大学の実験装置を使った研究	33
自社と大学との共同研究	48
製品開発等の事業化の体験演習	32
起業に必要な知識の修得	14
最先端の検査、診断技術の開発研究	33
地域包括的思念の実践教育	26
ゼミ等での成果の取りまとめ発表	16
国内の学会への参加や発表	30
国際学会への参加や発表	24
専門分野の講義の履修	22
専門以外の分野(医学系)の講義の履修	14
人文社会科学系分野の講義の履修	9
他社の技術者による講義	16
プロジェクト実践科目	11
その他	2

その他の記載:

- わからない

6. 社会人になっても就学できる医科学博士の大学院は必要であると思いますか？

必要である	63
必要ではない	2
わからない	46

7. その他、医科学専攻に関して、どんなことでも結構ですのでご意見がありましたらお書きください。
 医師とは異なる専門性に立脚し、医療、保健分野を広く俯瞰し、リーダーシップがとれる人材育成を期待する。自然科学と人文科学をつなぐ実践力を有する人材。
 医学系のニーズが現在の当社には無い。
 医学部の役割は、地域の病気をなおす、地域の人を健康にする事を第一として欲しい。論文を書くことでは地元のコウケンしたと言えない。
 どの分野でも通ずることと思いますが、学力だけではなく、人間力を磨き、いろいろなことに挑戦し、それを、言動で発せる人材が企業としては求めています。
 人生100歳時代に向けて、健康寿命を延ばすために必要な知識等の普及。終末期医療に関する適切な情報の発信と認知症に対する支援体制の整備。
 共同研究をしたことが教員だけでなく学生の評価にもつながるようにして欲しい。そのために共同研究の事務的な手続きを支援して欲しい、
 人体機能のセンシング技術
 大学院後期博士課程で勉強させて頂きましたが、医師だけでなく、一般的に実践(現場で活かせる為)での汚用が出来る勉強の場があれば…と思います。
 薬草の効能を比較できる教室を創設
 遠隔医療への対応を進めてほしい
 様々な分野を融合するメリットは有ると思いますがハイレベルを維持されるよう、中途半端にならないようにしてほしい。素人に分かり易い説明を行ってほしい。
 H30年臨床心理士が国家試験(認定心理師)になる様ですが、私は現在精神対話士で心のケアをクライアントにしています。社会人入学で認定心理師の取得できるセミナーを6ヶ月~1年位で短期間の勉強が出来るコースが作れないのか。
 リハビリテーションの視点が抜けていると思われます。
 副作用のない癌の治療薬の早期開発
 工学の事も学んで頂きたい為、「ものづくり企業」への現場実習、そしてその会社と何を医療分野で取り組めるかの学生からの発表及び取り組み。
 ヒトに限らずいのちにかかわる実体験(動物実験など)をさせてほしい。
 看護部門において科学的根拠のある看護ケアを実践する能力やチームの中でリーダーシップをとり、組織をけん引できる能力を期待しています。
 色々な分野で、スペシャリストを育ててほしい！
 ips研究所等のような高度な研究実践。鳥大においては最近医療技術が進んでいると聞いております。

8. 貴社・貴院の業種をお答えください(日本標準産業分類の大分類に準じています)

農業・林業	2
漁業	1
鉱業、採石業、砂利採取業	0
建設業	7
製造業	42
電気・ガス・熱供給・水道業	1
情報通信業	7
運輸業、郵便業	0
卸売業、小売業	6
金融業、保険業	4
不動産業、物品賃貸業	1
学術研究、専門・技術サービス業	5
宿泊業、飲食サービス業	1
生活関連サービス業、娯楽業	0
教育、学習支援業	4
医療、福祉	15
複合サービス事業	1
サービス業(他に分類されないもの)	8
公務(他に分類させるものを除く)	11

9. 貴社・貴院の規模を従業員数(正社員、契約社員、嘱託社員、非正規社員の計)でお答えください。(支社の場合全社で)

5人以下	10
6人以上、20人以下	12
21人以上、50人以下	13
51人以上、100人以下	20
101人以上、300人以下	22
301人以上	34

7. その他、医科学専攻に関して、どんなことでも結構ですのでご意見がありましたらお書きください。

()

8. 貴社・貴院の業種をお答えください（日本標準産業分類の大分類に準じています）

- | | |
|----------------------|-----------------------|
| 1) 農業・林業 | 2) 漁業 |
| 3) 鉱業、採石業、砂利採取業 | 4) 建設業 |
| 5) 製造業 | 6) 電気・ガス・熱供給・水道業 |
| 7) 情報通信業 | 8) 運輸業、郵便業 |
| 9) 卸売業、小売業 | 10) 金融業、保険業 |
| 11) 不動産業、物品賃貸業 | 12) 学術研究、専門・技術サービス業 |
| 13) 宿泊業、飲食サービス業 | 14) 生活関連サービス業、娯楽業 |
| 15) 教育、学習支援業 | 16) 医療、福祉 |
| 17) 複合サービス事業 | 18) サービス業（他に分類されないもの） |
| 19) 公務（他に分類させるものを除く） | |

9. 貴社・貴院の規模を従業員数（正社員、契約社員、嘱託社員、非正規社員の計）でお答えください。
（支社の場合全社で）

- | | | |
|-----------------|------------------|----------------|
| 1) 5人以下 | 2) 6人以上、20人以下 | 3) 21人以上、50人以下 |
| 4) 51人以上、100人以下 | 5) 101人以上、300人以下 | 6) 301人以上 |

回答、ありがとうございました。

新しい医学系大学院に関するアンケート【共学講座参加企業】

回答企業:6社

業種

医療, 福祉機器製造	2
一般機械製造	0
電子電気機器製造	1
その他の製造業	2
学術研究、専門・技術サービス業	1
その他	1

1. 上記説明をお読みいただき、大学院「医科学専攻」(博士前期課程(修士課程))の修了生を採用することについてどう思われますか。

是非採用したい	5
採用しない	1

2. 大学院「医科学専攻」(博士前期課程(修士課程))に、貴社・貴組織の社員・職員の方を社会人大学院生として入学させることについてどう思われますか。

是非入学させたい	4
入学させることは考えていない	2

3. このような大学院を設置するにあたり、医科学専攻博士前期課程の設置2年後に博士後期課程を設置するのが通例のようですが、新技術や高度な知識などをもとに事業化(起業)できるような能力を持った人材や大学教員を一刻も早く養成したいと考えており、医科学専攻博士前期課程と博士後期課程を同時に設置することを検討しております。このように同時設置することについてどう思われますか。

是非同時設置してほしい	6
同時設置しなくてよい	0

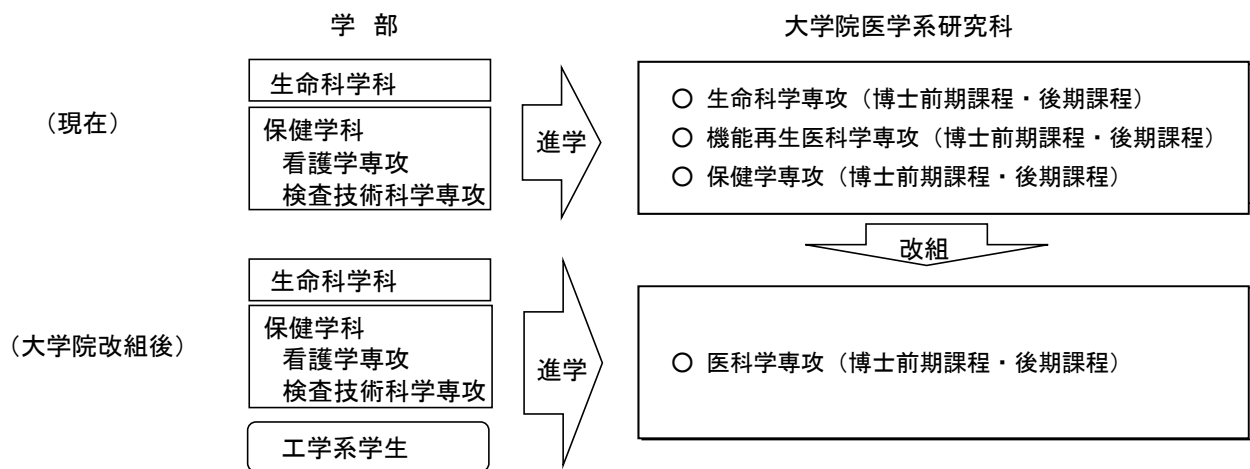
4. 大学院「医科学専攻」(博士後期課程)の修了生を採用することについてどう思われますか？

是非採用したい	5
採用しない	1

5. 大学院「医科学専攻」(博士後期課程)に、貴社・貴組織の社員・職員の方を社会人大学院生として入学することについてどう思われますか。

是非入学させたい	4
入学させることは考えていない	2

新しい医学系大学院に関するアンケート



鳥取大学における医学部，大学院医学系研究科（医師養成分野を除く）の現状と将来計画

これまで、大学院医学系研究科生命科学専攻では、分子・細胞レベルにおける生命に関する知識を身につけ、機能再生医科学専攻では遺伝子及び再生医療の知識を身につけた専門職業人や研究者を養成してきました。保健学専攻ではより深い知識を身につけた高度臨床実践者を養成してきました。

しかしながら、医療が高度化している現在においては、これら分野の横断的な知識や、直接には診療に関わらない分野であっても、医学の基礎知識を身につけていることが求められるようになっていきます。さらに診断技術や医療技術の進歩はめざましく、工学との連携もますます重要となり、本学においても現在、医学部附属病院新規医療研究推進センターを中心に、地域企業の皆様方と連携し、数々の医工連携の研究プロジェクトを進めており、これまで医療用シミュレータロボット、患者見守りシステム、車いすロボット、歯科治療用マウスピース等数多くの製品の開発が進んでいます。

また、これまでには自然科学分野においては人間やその心があまり前面に出ない教育を行ってまいりました。しかしながら、近年の社会的ニーズとして、より人間の心を理解したうえで自然科学分野の発展に寄与する人材が求められています。

そこで、本学では『心と科学の統合』を教育理念とし、これまでの生命科学専攻、機能再生医科学専攻、保健学専攻を改組・融合し、医学科の教員も参加した医科学専攻を2020年（平成32年）4月に設置し、医学の基礎知識を含む幅広い知識を持ち、より人間の心を理解できる、製薬・医療機器・診断技術等の関連企業での従事・研究者や、高度臨床実践者等を博士前期課程（修士）で養成し、バイオサイエンス分野で事業化（起業）できるような能力を持った人材や、大学教員（基礎医学・生命科学・保健学研究者）を博士後期課程で養成することを目指しております。本学医学部出身者のみならず、機械、電子情報、化学や生物工学などを学んだ工学系学生の進学も期待しています。

このような新しい大学院の設置に関して地域からのニーズとしてのご意見を調査し、設置に必要な申請書の資料とさせていただきますので、次のアンケートに回答をお願いします。（裏面にもあります）

1. 上記説明をお読みいただき、大学院「医科学専攻」（博士前期課程（修士課程））の修了生を採用することについてどう思われますか。

1) 是非採用したい

2) 採用しない

